

2024年度

授業要項

科目	生物	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(38コマ)
教員	小川貴志子	領域	基礎	実務経験	大学教諭
教科書	とっってもやさしい生物基礎				
参考書					
成績評価	小テストと学期末試験				
評価基準	小テストと学期末試験合計点が60点以上で合格とする				
到達目標	生物学と分子生物学の基礎を身につける				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書に基づいて問題集を復習をする				
授業内容	解剖学や生理学を学んでいくうえで必要な基礎知識を身につけることを一次目標に、生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性など生物学や分子生物学の基礎を学習する。さらに、はりきゅうの現場で働く時に必要な身体や健康についての考え方を学ぶ。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	生物学の基礎ガイダンス	
2	細胞の小器官種類と役割	
3	エネルギーと代謝	
4	呼吸と代謝	
5	ミトコンドリアと代謝	
6	ATP産生と栄養素	
7	遺伝情報とDNA	
8	DNAの構造	
9	ゲノムと遺伝情報	
10	細胞分裂と遺伝情報の分配	
11	細胞周期とDNA	
12	遺伝子情報とタンパク質の合成	
13	体内環境と恒常性	
14	ヒトの体液の種類と働き	
15	血液と血液凝固	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	ヒトの循環系	
17	心臓と血管の構造	
18	血液循環と血管の構造	
19	肝臓の構造	
20	肝臓の働き	
21	腎臓の構造	
22	腎臓の働き	
23	ヒトの神経系	
24	神経の構造と神経伝達	
25	中枢神経系	
26	脳の構造と大脳皮質の機能局在	
27	自律神経系	
28	自律神経による調節	
29	内分泌の特徴	
30	ヒトの主なホルモンの種類と作用	
31	自律神経とホルモンの強調	
32	体温の調節	
33	免疫のしくみ	
34	免疫で働く細胞（種類と働き）	
35	自然免疫系	
36	獲得免疫系	
37	免疫と病気	
38	まとめ	

2024年度

授業要項

科目	研究法概論	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(38コマ)
教員	小川 貴志子	領域	基礎	実務経験	大学教諭
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価	グループワークや個人による授業内での発表、レポート(小レポートも含む)				
評価基準	学則に準じる				
到達目標	科学的手法を学び、自分の考えを客観的事実に基づいて論理的に伝える方法を習得する				
留意点					
授業外に必要な学習内容	内容によっては、授業時間外での計測、論文作成が必要となる				
授業内容	研究を行う上で必要な技術を習得し、授業内で行うプレゼンテーションやレポート、論文の書き方に関する基礎を身につけることで論理的に自身の考えを述べられるようになることを目標に授業を展開する。研究計画、実験調査、統計処理方法を学修する。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	研究の基礎—研究論文の基礎知識、研究デザインの重要性について	
3	論文の読み方と検索方法	
4	実験実習① — グループワークによるヒトの形態や動きの計測	
5	データの整理と解析方法 —エクセルを用いた実践—	
6	データのまとめ方とグラフ作成	
7	プレゼンテーション資料の作成 —パワーポイントを用いた実践—	
8	実験実習② —グループワークによる課題研究の決定と計画書の作成—	
9	計測データの解釈とその背景の作成	
10	データ解析方法の学習と作成	
11	グループ発表②	
12	研究計画書の発表会	
13	被験者への説明書と同意書の作成	
14	被験者集めと同意書の回収	
15	研究計画の方法に基づく実験・調査の開始	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	実験調査の進捗状況（グループ発表）①	
17	実験調査の進捗状況（グループ発表）②	
18	実験調査の進捗状況（グループ発表）③	
19	前期のまとめ 一実験結果の作成一	
20	計測データの解釈と統計処理方法（平均値と標準偏差）	
21	計測データの解釈と統計処理方法（平均値の差の検定）	
22	計測データの解釈と統計処理方法（回帰分析）	
23	計測したデータの検討、研究計画の修正①	
24	計測したデータの検討、研究計画の修正②	
25	データ解析・データの解釈と結果の記述	
26	データ解析・データの解釈と考察の記述	
27	研究の抄録作成	
28	研究の抄録修正①	
29	研究の抄録修正②	
30	研究抄録の提出	
31	パワーポイントによる研究発表ファイル作成①	
32	パワーポイントによる研究発表ファイル作成②	
33	パワーポイントによる研究発表ファイル作成③	
34	研究の発表会 ①	
35	研究の抄録修正①	
36	研究の抄録修正②	
37	研究の発表会 ②	
38	まとめ	

2024年度

授業要項

科目	国語	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	4単位(30コマ)
教員	上條 睦美	領域	基礎	実務経験	中学校教諭
教科書	日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級・増補改訂版				
参考書					
成績評価	試験(2回/年)・毎回の演習テスト・提出物・授業態度などを総合的に評価する。				
評価基準	年間出席の2/3以上の出席と定期試験60点以上を成績の下限とする。				
到達目標	医療現場で必要となるコミュニケーション能力と論理的思考に基づく読解力・表現力を身に付ける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書に示されている日本語表現の基礎内容を繰り返し確認しておくこと。				
授業内容	講義と実践(演習、ロールプレイ)により、理解と確認を繰り返し行う。ソーシャルスキルを学ぶことで、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育て、日本語表現の基礎を学び適切な文章を論理的思考を用いて読むことにより読解力や表現力の向上を図る。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス、コミュニケーション・言葉の成り立ちについて	
2	ソーシャルスキル「挨拶」をする、スタディスキル「メモ」	
3	ソーシャルスキル「話すスキル」「聞くスキル」	
4	スタディスキル「正しい日本語を使う1」敬語	
5	ソーシャルスキル「話し合いのスキル」1	
6	ソーシャルスキル「話し合いのスキル」2	
7	スタディスキル「新聞記事から学ぶ」1	
8	スタディスキル「文章から読み取る」1	
9	ソーシャルスキル「アサーションスキルとは」	
10	ソーシャルスキル「上手に断る」アサーション	
11	スタディスキル「正しい日本語を使う2」文法	
12	スタディスキル「語彙」について学ぶ	
13	スタディスキル「正しい日本語を使う3」文法	
14	スタディスキル「漢字の読み書き」1	
15	前期フィードバック・まとめ	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	スタディスキル「新聞記事から学ぶ」2	
17	スタディスキル「正しい日本語を使う4」言葉の意味を考える	
18	スタディスキル「文章から読み取る」2	
19	ソーシャルスキル「感情をコントロールする」	
20	ソーシャルスキル「いろいろな場面におけるアサーション」	
21	スタディスキル「説明する、発表する」	
22	スタディスキル「電話をする」「メールをする」	
23	スタディスキル「手紙を書く」	
24	スタディスキル「調べてレポートを書く」	
25	コミュニケーションゲーム「ディベートをしよう」	
26	スタディスキル「漢字の読み書き」2	
27	古文を読む「徒然草」	
28	批評文を書く	
29	後期のまとめ	
30	フィードバック・その他	

授業要項

科目	解剖学I	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
教員	田口 大輔	教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教科書	全国柔道整復学校協会監修 解剖学改訂第2版				
参考書					
成績評価	全範囲の定期試験(90%)に平常点(講義内確認テスト・レポート等)(10%)を加え、総合的に評価して最終成績とします。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 骨と関節の基本構造と種類を説明できる。 体幹(脊柱、胸郭)、四肢、頭蓋の骨と関節構造を説明できる。 骨格筋の構造と筋の付属装置について説明できる。 体幹(背部、胸部、腹部)、四肢、頭蓋、頸部の筋の形状・起始と停止・作用・支配神経を説明できる。 				
留意点	各回の授業内容に沿って講義を構成しますが、時間(時限)の配分は適宜調整しながら進めます。				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 予習として指示された専門用語について調べ、理解した上で授業にのぞむこと(1時間程度)。 授業の際に作成したノート・配布資料をよく復習し、理解した上で次の授業にのぞむこと(1時間程度)。 				
授業内容	解剖学は全ての医療系科目の基盤であるため、これを十分に理解しなければ他の臨床系科目も理解できません。本講義では人体の構造を十分に理解してもらうために、人体の構成を一連の働きにより分けた器官系統別に解説していきます。最終的に国家試験に必要な解剖学的知識だけでなく、他の科目との関係や臨床的に必要な解剖学的知識の獲得を目指します。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター
2	骨格系総論①	プロジェクター
3	骨格系総論②	プロジェクター
4	筋系総論	プロジェクター
5	上肢の骨格①(肩甲骨、鎖骨、上腕骨)	プロジェクター
6	上肢の骨格②(橈骨、尺骨、手根骨、指骨)	プロジェクター
7	上肢の筋①(三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋)	プロジェクター
8	上肢の筋②(上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋)	プロジェクター
9	上肢の筋③(円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋)	プロジェクター
10	上肢の筋④(浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋)	プロジェクター
11	上肢の筋⑤(腕橈骨筋、長、短橈側手根伸筋、指伸筋、尺側手根伸筋)	プロジェクター
12	上肢の筋⑥(回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋、小指伸筋)	プロジェクター
13	上肢の筋⑦(母指球筋、小指伸筋、手掌の筋)	プロジェクター
14	上肢の関節①(胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲上腕関節)	プロジェクター
15	上肢の関節②(肘関節、橈尺関節、手関節)	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	上肢の骨、筋、関節の総復習	プロジェクター
17	下肢の骨①（寛骨、仙骨、尾骨、大腿骨、膝蓋骨）	プロジェクター
18	まとめ・演習	プロジェクター
19	下肢の骨②（脛骨、腓骨、足根骨、足趾の骨）	プロジェクター
20	下肢の筋①（腸腰筋、大・中・小殿筋、大腿筋膜張筋、深層外旋6筋）	プロジェクター
21	下肢の筋②（大腿四頭筋、ハムストリングス）	プロジェクター
22	下肢の筋③（恥骨筋、短内転筋、長内転筋、大内転筋、薄筋）	プロジェクター
23	下肢の筋④（前脛骨筋、長趾伸筋、長母指伸筋、第3腓骨筋）	プロジェクター
24	下肢の筋⑤（長腓骨筋、短腓骨筋、長趾屈筋、長母指屈筋、後脛骨筋）	プロジェクター
25	下肢の筋⑥（下腿三頭筋、足底、足背筋）	プロジェクター
26	下肢の関節①（股関節、膝関節）	プロジェクター
27	下肢の関節①（距腿関節、距骨下関節、ショパール、リスフラン関節）	プロジェクター
28	下肢の骨、筋、関節の総復習	プロジェクター
29	脊椎の骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎）	プロジェクター
30	胸郭の骨（胸骨、肋骨） 胸部の筋（大胸筋、小胸筋、前鋸筋、鎖骨下筋、肋間筋）	プロジェクター
31	腹部の筋（腹直筋、錐体筋、内・外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋）	プロジェクター
32	背部の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、菱形筋、広背筋）	プロジェクター
33	固有背筋、胸鎖乳突筋、広頸筋、頸部の筋	プロジェクター
34	頭蓋骨（脳頭蓋骨）	プロジェクター
35	頭蓋骨（顔面頭蓋）	プロジェクター
36	表情筋	プロジェクター
37	まとめ・演習	プロジェクター
38	総まとめ	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	解剖学 2	学科名	柔整	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教員	増田 裕次	領域	基礎専門	実務経験	歯科医師
教科書	解剖学改訂第2版				
参考書	なし				
成績評価	テスト(2回)・課題				
評価基準	総合的に判断する				
到達目標	解剖学を説明できる				
留意点					
授業外に必要な学習内容	復習をしっかりと行う				
授業内容	解剖学(総論・内蔵学・内分泌学・脈管学・神経学)				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	総論 (1)	
2	総論 (2)	
3	内蔵学・口腔	
4	内蔵学・消化器 (1)	
5	内蔵学・消化器 (2)	
6	内蔵学・消化器 (3)	
7	内蔵学・呼吸器	
8	内蔵学・泌尿器 (1)	
9	内蔵学・泌尿器 (2)	
10	内蔵学・生殖器	
11	内分泌学 (1)	
12	内分泌学 (2)	
13	内分泌学 (3)	
14	演習 1	
15	演習 2	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	脈管学・総論	
17	脈管学・心臓（１）	
18	脈管学・心臓（２）	
19	脈管学・動脈（１）	
20	脈管学・動脈（２）	
21	脈管学・静脈（１）	
22	脈管学・静脈（２）	
23	胎児循環	
24	リンパ系	
25	神経の働き	
26	神経学・中枢神経（１）	
27	神経学・中枢神経（２）	
28	神経学・末梢神経・三叉神経（１）	
29	神経学・末梢神経・三叉神経（２）	
30	神経学・末梢神経・頸神経叢	
31	神経学・末梢神経・腕神経叢（１）	
32	神経学・末梢神経・腕神経叢（２）	
33	神経学・末梢神経・胸神経、腰神経叢	
34	神経学・末梢神経・仙骨神経叢	
35	神経学・自律神経	
36	感覚器学・特殊感覚	
37	感覚器学・一般感覚	
38	演習	

2024年度

授業要項

科 目	解剖学3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教 員	増田 裕次	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	解剖学 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 改訂第2版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する				
評価基準	60点以上を合格とする				
到達目標	脈管系、内臓系、内分泌系の正常な構造及び機能を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ、「解剖学」のうち、人体解剖学概説、脈管系、内臓系、内分泌系について、各器官の位置、構造的特徴及び機能について、講義と演習を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	内臓－消化器（1） 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸	
2	内臓－消化器（2） 膵臓、肝臓、腹膜	
3	内臓－呼吸器	
4	内臓－泌尿器	
5	内臓－生殖器	
6	内分泌系	
7	脈管（1） 血管、心臓	
8	脈管（2） 頭頸部と体幹の脈管	
9	脈管（3） 上肢の脈管	
10	脈管（4） 下肢の脈管	
11	脈管（5） リンパ	
12	まとめ	
13	定期試験解説	

2024年度

授業要項

科目	生理学1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	竹岡 みち子	領域	専門基礎	実務経験	大学教諭
教科書	「生理学改定第4版」南江堂				
参考書	必要に応じ適宜示唆解説する				
成績評価	定期試験、小テスト(講義中実施)、及び出席状況に基づく総合判定				
評価基準	定期試験で6割以上(小テストを加味する)				
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官の機能につき、個別の知識だけでなく、身体を統合した上での理解を深める				
留意点	その日のうちに必ず教科書を読み返し復習すること				
授業外に必要な学習内容	その日のうちに必ず毎回配布するプリントを復習し、教科書の該当部分を読み返す。また、小テストの準備をする				
授業内容	教科書の内容を中心に、スライドを使用してわかりやすく解説して行く。前回の授業内容の理解度を把握するため、毎回授業前に小テストを行う。直後に解答を配布するが、これが授業一回ごとのまとめとなる				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	1. 生理学とは	教科書・スライド
2	1. 生理学とは	教科書・スライド
3	8. 血液	教科書・スライド
4	8. 血液	教科書・スライド
5	まとめプリントの使い方	教科書・スライド
6	8. 血液	教科書・スライド
7	8. 血液	教科書・スライド
8	8. 血液	教科書・スライド
9	10. 循環	教科書・スライド
10	10. 循環	教科書・スライド
11	10. 循環	教科書・スライド
12	10. 循環	教科書・スライド
13	10. 循環	教科書・スライド
14	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
15	11. 呼吸の生理	教科書・スライド

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
17	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
18	総括・復習	教科書・スライド
19	前期試験解説	教科書・スライド
20	11. 呼吸の生理	教科書・スライド
21	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
22	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
23	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
24	12. 尿の生成と排泄	教科書・スライド
25	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
26	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
27	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
28	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
29	13. 栄養と代謝	教科書・スライド
30	14. 消化と吸収	教科書・スライド
31	14. 消化と吸収	教科書・スライド
32	14. 消化と吸収	教科書・スライド
33	14. 消化と吸収	教科書・スライド
34	14. 消化と吸収	教科書・スライド
35	14. 消化と吸収	教科書・スライド
36	総括・復習1	教科書・スライド
37	総括・復習2	教科書・スライド
38	後期試験解説	教科書・スライド

2024年度

授業要項

科目	生理学2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	竹岡 みち子	領域	専門基礎	実務経験	大学教諭
教科書	「生理学改定第4版」南江堂				
参考書	必要に応じ適宜示唆解説する				
成績評価	定期試験、小テスト(講義中実施)、及び出席状況に基づく総合判定				
評価基準	定期試験で6割以上(小テストを加味する)				
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官の機能につき、個別の知識だけでなく、身体を統合した上での理解を深める				
留意点	その日のうちに必ず教科書を読み返し復習すること				
授業外に必要な学習内容	その日のうちに必ず毎回配布するプリントを復習し、教科書の該当部分を読み返す。また、小テストの準備をする				
授業内容	教科書の内容を中心に、スライドを使用してわかりやすく解説して行く。前回の授業内容の理解度を把握するため、毎回授業前に小テストを行う。直後に解答を配布するが、これが授業一回ごとのまとめとなる				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	6. 内分泌	教科書・スライド
2	6. 内分泌	教科書・スライド
3	6. 内分泌	教科書・スライド
4	6. 内分泌	教科書・スライド
5	7. 生殖	教科書・スライド
6	7. 生殖	教科書・スライド
7	7. 生殖	教科書・スライド
8	9. 骨の生理	教科書・スライド
9	9. 骨の生理	教科書・スライド
10	3. 神経の生理	教科書・スライド
11	3. 神経の生理	教科書・スライド
12	3. 神経の生理	教科書・スライド
13	3. 神経の生理	教科書・スライド
14	3. 神経の生理	教科書・スライド
15	3. 神経の生理	教科書・スライド

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	3. 神経の生理	教科書・スライド
17	4. 運動の生理	教科書・スライド
18	総括・復習	教科書・スライド
19	前期試験解説	教科書・スライド
20	4. 運動の生理	教科書・スライド
21	4. 運動の生理	教科書・スライド
22	4. 運動の生理	教科書・スライド
23	4. 運動の生理	教科書・スライド
24	4. 運動の生理	教科書・スライド
25	5. 感覚の生理	教科書・スライド
26	5. 感覚の生理	教科書・スライド
27	5. 感覚の生理	教科書・スライド
28	5. 感覚の生理	教科書・スライド
29	5. 感覚の生理	教科書・スライド
30	5. 感覚の生理	教科書・スライド
31	問題演習1	教科書・スライド
32	問題演習2	教科書・スライド
33	問題演習3	教科書・スライド
34	問題演習4	教科書・スライド
35	問題演習5	教科書・スライド
36	問題演習6	教科書・スライド
37	総括・復習	教科書・スライド
38	後期試験解説	教科書・スライド

授業要項

科目	運動学 Kinesiology	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	宮坂 卓治(13コマ)、宮前 勤(25コマ) オムニバスでの授業	領域	専門機関	実務経験	大学教授/接骨院
教科書	運動学(改訂第3版) 全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版				
参考書	参考書、問題集等必要なものがある場合、事前に連絡します。お持ちでない方は必ず購入して下さい。必要な資料等は「Google classroom」にアップしますので、必要に応じ各自印刷してください。				
成績評価	宮坂担当(13コマ): 定期試験(90%)および前回の講義内容の小テストを毎回授業ごとに行い(10%)その結果により評価します。小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。定期試験の正解および解説は試験終了後フィードバックします。授業に欠席した場合、小テストの追再試験は行いませんので注意してください。 なお、定期試験は授業時間外に行います。 宮前 勤(25コマ):				
評価基準	オムニバスの授業のため、各教員毎評価します。それぞれの分担(範囲)ごと100点満点の60点以上を合格といたします。成績評価につきましては学則に準じます。				
到達目標	1. 身体運動を科学的に理解し、説明することができる。 2. 運動の正常値を理解し、異常運動を捕らえることができる。 3. 運動器の正常と異常を理解し、説明することができる。 4. 柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。				
留意点	宮坂担当分については、毎時間小テストを行いますので、授業の復習をしっかり行いましょう。授業中の飲食、私語、携帯電話等の操作など、他人の迷惑になる行為はやめましょう。尚、授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、状況により遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。 メールアドレス: t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜日授業開始30分前と授業終了後10分間は教員室にいます。				
授業外に必要な学習内容	解剖学、生理学が基礎となる科目です。1~2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを覚えてきて下さい。次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われます。 「ディプロマポリシーとの関連性」 医療従事者として必要な知識の習得に該当します。				
授業内容	運動学は身体運動を科学的に研究する学問です。人間の運動に関わる正常な構造と機能について学びましょう。この授業は主に講義形式ですが、適宜ペアワークおよびディスカッションを実施します(アクティブラーニングあり)。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	「運動学の目的、運動の表し方」 教科書P1-8までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
2	「身体運動と力学1(身体運動に関する力、人体における単一機械構造)」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P9-15までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
3	「身体運動と力学2(滑車と輪軸、力学的有利性、運動法則)」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P15-19までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
4	「仕事と力学的エネルギー、運動器の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P20-26までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
5	「骨の発生と成長、関節の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P27-31までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
6	「骨格筋の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P32-36までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
7	「筋収縮の様態、神経の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P36-43までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
8	「末梢神経、中枢神経」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P44-49までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
9	「錐体路と錐体外路、運動感覚」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P50-55までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
10	「反射と随意運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P57-61までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
11	「延髄・橋が関与する反射、随意運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P62-68までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
12	「姿勢」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P177-188までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
13	前半のまとめおよび試験問題の解説 問題の解説およびグループワークを行います。 教科書P1-103, 177-188までを復習しましょう。試験問題を見直しましょう。	プロジェクター
14	歩行分析その1	プロジェクター
15	歩行分析その2	プロジェクター
16	運動発達その1	プロジェクター
17	運動発達その2	プロジェクター
18	運動学習	プロジェクター
19	上肢帯の運動その1	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
20	上肢帯の運動その 2	プロジェクター
21	肩関節の運動その 1	プロジェクター
22	肩関節の運動その 2	プロジェクター
23	肘関節の運動	プロジェクター
24	手関節と手の運動その 1	プロジェクター
25	手関節と手の運動その 2	プロジェクター
26	手関節と手の運動その 3	プロジェクター
27	股関節の運動その 1	プロジェクター
28	股関節の運動その 2	プロジェクター
29	膝関節の運動その 1	プロジェクター
30	膝関節の運動その 2	プロジェクター
31	膝関節の運動その 3	プロジェクター
32	足関節の運動その 1	プロジェクター
33	足関節の運動その 2	プロジェクター
34	頭部・体幹と脊柱の運動その 1	プロジェクター
35	頭部・体幹と脊柱の運動その 2	プロジェクター
36	頭部・体幹と脊柱の運動その 3	プロジェクター
37	頭部・体幹と脊柱の運動その 4	プロジェクター
38	総復習	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	高齢者の生理的特徴・変化	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	海野 俊平	領域	専門基礎	実務経験	大学教諭
教科書	生理学 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 改訂第4版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する。				
評価基準	60点以上を合格とする。				
到達目標	人体の正常な構造と機能および高齢者における生理学的変化を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	「生理学」の内容を踏まえ、高齢者における生理的機能に変化、高齢者に特有の疾患とその発症メカニズム等について解説する。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	老化とは何か	
2	加齢による皮膚と体の水分量の変化	
3	腎機能とその加齢による変化	
4	加齢による免疫機能の変化	
5	血圧調節機構と高血圧・動脈硬化	
6	血糖調節機構と糖尿病	
7	神経機能の加齢変化	
8	認知症と記憶の神経機構	
9	運動制御の加齢変化とパーキンソン病	
10	筋の加齢変化	
11	骨代謝と骨の加齢変化	
12	まとめ	
13	定期試験解説	

2024年度

授業要項

科目	競技者の生理的特徴・変化	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	海野 俊平	領域	専門基礎	実務経験	大学教諭
教科書	生理学 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 改訂第4版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する。				
評価基準	60点以上を合格とする				
到達目標	正常な運動器の構造と運動機能および競技者における生理学的変化を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	「生理学」の内容を踏まえ、競技者における生理的機能に変化、トレーニングの効果とそのメカニズム等について解説する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	身体と運動機能の発達	
2	骨格筋の収縮メカニズム	
3	骨格筋・心筋・平滑筋と骨格筋の収縮の特徴	
4	筋収縮のエネルギー源	
5	トレーニングとは何か	
6	筋力トレーニングの生理学	
7	持久力トレーニングの生理学	
8	競技者における感覚機能の変化	
9	競技者における運動機能の変化	
10	疲労のメカニズム	
11	運動と栄養	
12	まとめ	
13	定期試験解説	

2024年度

授業要項

科目	病理学	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	加藤 正裕	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	病理学概論 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版				
参考書	標準病理学 医学書院(本学図書所蔵)				
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	疾病の原因、成り立ち、人体への影響などに対する理解を通して患者の抱えている健康障害を把握することに役立て、有効な施術につなげる。				
留意点	復習に時間をかける。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	病理学総論を中心に、退行性病変、代謝障害、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常、腫瘍など、器官の違いをこえて共通にみられる病変について、映像資料・復習問題をまじえて授業を行う。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	病理学とは、方法、疾病一般	
2	退行性病変（萎縮、変性）	
3	壊死、アポトーシス、死	
4	代謝障害（尿酸・カルシウム・色素・鉄・胆汁色素代謝障害、糖尿病）	
5	循環障害（充血、うっ血、虚血、出血、血栓症、塞栓症）	
6	循環障害（梗塞、浮腫、脱水症、高血圧症）	
7	進行性病変（肥大、過形成、再生、化生、創傷治癒）	
8	炎症（原因、形態的变化、経過による分類、形態による分類）	
9	免疫異常（免疫不全、自己免疫疾患）	
10	アレルギー（5型）	
11	腫瘍（定義、腫瘍細胞、組織構造、発育、生体への影響、発癌の原因）	
12	腫瘍（腫瘍の分類、主要な癌）	
13	先天異常（遺伝性疾患、染色体異常、胎児障害）	
14	病因	
15	定期本試験解説	

2024年度

授業要項

科 目	衛生学・公衆衛生学	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (15 コマ)
教 員	加藤 正裕	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	衛生学・公衆衛生学 全国柔道整復学校協会 監修 南江堂				
参考書	図説 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 編				
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	健康の維持・増進を支える公衆衛生の仕組みや活動について理解し、施術や健康教育を含めた地域社会における活動に活かすこと。				
留意点	復習に時間をかける。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	公衆衛生学の現代的な理念・健康の定義、疾病予防、健康の測定、健康管理、感染症対策、疫学などを中心に、映像資料・復習問題をまじえて授業を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	公衆衛生学とは、健康の定義	
2	疾病予防、公衆衛生学の理念	
3	健康管理、健康の測定	
4	疫学	
5	感染症対策、消毒	
6	環境衛生	
7	生活環境・食品衛生活動	
8	母子保健	
9	学校保健・産業保健	
10	成人・高齢者保健	
11	精神保健	
12	地域保健	
13	国際保健・衛生行政	
14	医療安全	
15	定期本試験解説	

2024年度

授業要項

科目	リハビリテーション医学	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教員	中澤 住夫	領域	専門基礎	実務経験	大学教諭
教科書	リハビリテーション医学				
参考書	適宜資料を配布する				
成績評価	定期試験				
評価基準	60%以上				
到達目標	関連職種・機関と連携して対象者のリハビリテーションが行えるよう、リハビリテーション医学を理解し基礎知識を習得する				
留意点	理解に努め、わからないことは積極的に質問する				
授業外に必要な学習内容	授業後にその内容を振り返り、教科書や配布資料を読んで確認すること				
授業内容	リハビリテーション専門職として医療・介護での臨床経験とリハビリテーション専門職養成教育の経験を踏まえ、リハビリテーションとは何か、その目的・対象・方法、リハビリテーション関連職種の役割とチームアプローチ、疾患別リハビリテーションの概要を教授する。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	リハビリテーションとは、目的・対象の概要	
2	リハビリテーションとは、対象と方法の概要	
3	機能構造障害 関節可動域制限、原因・評価	
4	機能構造障害 関節可動域制限、治療的方法	
5	機能構造障害 筋力低下、原因・評価	
6	機能構造障害 筋力低下、治療的方法	
7	機能構造障害 中枢神経性運動障害とは	
8	機能構造障害 中枢神経性運動障害の評価と治療的方法	
9	機能構造障害 疼痛・廃用症候群・その他	
10	活動制限 日常生活活動・生活関連活動とは	
11	活動制限 ADLの評価	
12	活動制限に対する直接的アプローチ 基本姿勢動作の評価と方法①	
13	活動制限に対する直接的アプローチ 基本姿勢動作の評価と方法②	
14	活動制限に対する直接的アプローチ 歩行補助具	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
15	活動制限に対する直接的アプローチ 身の回り動作の方法	
16	活動制限に対する直接的アプローチ 装具	
17	参加制約に対する直接的アプローチ	
18	リハビリテーション関連職種 医師・PT	
19	リハビリテーション関連職種 医師・OT・ST	
20	疾患別リハビリテーション 脳血管疾患	
21	疾患別リハビリテーション 運動器疾患・呼吸リハ	
22	疾患別リハビリテーション 心臓リハ・小児疾患	
23	疾患別リハビリテーション 精髓損傷・がん・その他	
24	まとめ①	
25	まとめ②	

2024年度

授業要項

科目	一般臨床医学1	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	竹前 紀樹	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	一般臨床医学(改定第3版)全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版				
参考書					
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が授業日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	医療系従事者にとって内科診断学並びに疾患の基礎知識は全ての基本です。国家試験合格はもとより将来の仕事に役立つ学習をしましょう				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ次のことを教授する。 基本は「講義」です。補助資料として種々のプリントを用意します。また音や映像も用いて一般臨床医学における診断から治療内容を理解しましょう。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	診察概論・医療面接	
2	診察各論(視診)	
3	診察各論(打診・聴診・触診)	
4	生命徴候	
5	感覚検査と反射検査	
6	臨床症状	
7	検査法	
8	呼吸器疾患(1)	
9	呼吸器疾患(2)	
10	呼吸器疾患(3)	
11	循環器疾患(1)	
12	循環器疾患(2)	
13	循環器疾患(3)	
14	循環器疾患(4)	
15	消化器疾患(1)	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	前半のまとめ	
17	中間試験ガイダンス	
18	中間試験対策	
19	消化器疾患 (2)	
20	消化器疾患 (3)	
21	消化器疾患 (4)	
22	代謝疾患 (1)	
23	代謝疾患 (2)	
24	代謝疾患 (3)	
25	内分泌疾患 (1)	
26	内分泌疾患 (2)	
27	内分泌疾患 (3)	
28	内分泌疾患 (4)	
29	血液疾患 (1)	
30	血液疾患 (2)	
31	血液疾患 (3)	
32	腎疾患 (1)	
33	腎疾患 (2)	
34	腎疾患 (3)	
35	腎疾患 (4)	
36	修了試験ガイダンス	
37	修了試験対策	
38	一年のまとめ	

科目	一般臨床医学2 General clinical medicine 2	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教員	宮坂 卓治	領域	専門基礎	実務経験	大学教授
教科書	一般臨床医学(改訂第3版)全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版				
参考書	<p>・「ビジュアルノート(第5版)」医療情報科学研究所(編集) 出版社:メディックメディア ¥5,280 イラストを見ただけで疾患が理解できるようになっていますので、家庭学習の際役に立ちます。</p> <p>・The Merck Manual(世界的に有名な医学テキスト)の日本語訳が無料で閲覧できます: 「http://merckmanual.jp/mmpej/index.html」X線画像等も無料で見る ことができますので、ぜひ利用して下さい。 その他、参考書、問題集等必要なものがある場合、事前に連絡します。 また、プリント等は「Google classroom」に適宜アップしますので、必要に応じ各自印刷してください。</p>				
成績評価	<p>定期試験(2回)90%、小テスト(35回程度)10%にて評価します。 定期試験の解答例・解説は、まとめの授業(試験終了後)においてフィードバックします。 小テスト(理解度確認テスト)の解答解説は毎時間行い、その都度フィードバックします。 ※授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、やむを得ず遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。 尚、定期試験においては追再試験を実施しますが、小テストの追再試験は行いません。定期試験は授業時間外に行います。</p>				
評価基準	<p>前期試験と後期試験を行い、それぞれ100点満点の60点以上を合格といたします。 成績評価につきましては学則に準じます。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙できるようにしましょう。 2. これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明できるようにしましょう。 3. 現代医療における主要な課題について説明できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。 				
留意点	<p>毎時間小テストを行いますので、授業の復習をしっかり行いましょう。 授業中の飲食、私語、携帯電話の操作など、他人の迷惑になる行為はやめましょう。 尚、授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、やむを得ず遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。 メールアドレス: t.miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜日授業開始30分前と授業終了後10分間は教員室にいます。</p>				
授業外に必要な学習内容	<p>解剖学、生理学、病理学が基礎となる科目です。1～2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。 予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを覚えてきて下さい。次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われます。</p>				
授業内容	<p>主に内科領域(神経疾患、感染症、自己免疫疾患、アレルギー、環境要因による疾患)の代表的疾患について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。 椎間関節の捻挫と違って、癌の骨転移だった。という様なケースは現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。 この授業は主に講義形式ですが、適宜ペアワークおよびディスカッションを実施します(アクティブラーニングあり)。 「授業外に必要な学習内容」 解剖学、生理学、病理学が基礎となる科目です。1～2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。 予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを覚えてきて下さい。次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われます。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	<p>【タイトル】血液・造血器疾患各論 1</p> <p>【到達目標】赤血球疾患について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】</p> <p>教科書 p 188-191までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
2	<p>【タイトル】血液・造血器疾患各論 2</p> <p>【到達目標】白血球疾患、リンパ系疾患、出血性素因、血漿蛋白異常症について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 191-197までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
3	<p>【タイトル】腎・尿路疾患総論、各論 1</p> <p>【到達目標】主要徴候・主要検査について説明できる。</p> <p>腎不全について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 198-202までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
4	<p>【タイトル】腎・尿路疾患各論 2</p> <p>【到達目標】慢性腎臓病、血液透析、腹膜透析について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 202-207までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
5	<p>【タイトル】腎・尿路疾患各論 3</p> <p>【到達目標】透析療法の合併症、腎移植、糸球体疾患、ネフローゼ症候群について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 207-214までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
6	<p>【タイトル】腎・尿路疾患各論 4</p> <p>【到達目標】間質の疾患、尿路感染症、遺伝性腎疾患、全身疾患に伴う腎障害について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 214-220までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
7	<p>【タイトル】神経疾患総論 1</p> <p>【到達目標】意識障害、認知症、筋力低下、麻痺について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】</p> <p>教科書 p 220-222までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
8	<p>【タイトル】神経疾患総論2</p> <p>【到達目標】歩行障害、運動失調、不随意運動、嚥下障害、めまいについて説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 2 2 2 - 2 2 7 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
9	<p>【タイトル】神経疾患総論3、各疾患1</p> <p>【到達目標】頭痛、感覚障害、脳血管障害について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 2 2 7 - 2 3 0 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
10	<p>【タイトル】各疾患2（腫瘍性疾患など）</p> <p>【到達目標】腫瘍性疾患、感染性疾患、機能的疾患、認知症について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 2 3 0 - 2 3 3 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
11	<p>【タイトル】各疾患3（炎症性疾患など）</p> <p>【到達目標】パーキンソン病、パーキンソン症候群、運動ニューロン疾患、炎症性疾患、神経免疫疾患、筋疾患について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 2 3 3 - 2 3 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
12	<p>【タイトル】感染症1（総論）</p> <p>【到達目標】感染が成立する要因、宿主と病原体の相互関係、外因性感染と内因性感染、病原体の感染経路について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 2 3 6 - 2 4 0 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
13	<p>【タイトル】感染症2（総論2）、各疾患1（呼吸器感染症など）</p> <p>【到達目標】感染症発症後の経過と感染形態、市中感染と院内感染、日和見感染、感染症の診断、感染症の治療、呼吸器感染症、尿路感染症について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 2 4 0 - 2 4 4 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
14	<p>【タイトル】各疾患3（中枢神経感染症など）</p> <p>【到達目標】中枢神経感染症、皮膚感染症、整形外科領域感染症、性行為感染症、その他の感染症について説明できる。</p> <p>【授業形態】主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。教科書 p 2 4 5 - 2 4 9 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
15	<p>【タイトル】 その他の感染症、リウマチ・膠原病・アレルギー1</p> <p>【到達目標】 嫌気性菌感染症、膠原病の病因・病態、関節リウマチについて説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 2 4 9 - 2 5 4 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
16	<p>【タイトル】 リウマチ・膠原病・アレルギー2</p> <p>【到達目標】 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 2 5 4 - 2 5 9 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
17	<p>【タイトル】 リウマチ・膠原病・アレルギー3</p> <p>【到達目標】 結節性多発動脈炎、リウマチ性多発筋痛症、リウマチ熱、アレルギーについて説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 2 5 9 - 2 6 3 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
18	<p>【タイトル】 環境要因による疾患</p> <p>【到達目標】 熱中症、一酸化炭素中毒について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 2 6 3 - 2 6 4 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
19	<p>【タイトル】 まとめ1</p> <p>【到達目標】 神経疾患、感染症、リウマチ・膠原病、アレルギー、環境要因による疾患についてのまとめ</p> <p>【授業形態】 まとめ、中間試験および問題解説</p> <p>【備 考】 教科書 p 2 2 0 - 2 6 4 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
20	<p>【タイトル】 視診、打診の復習</p> <p>【到達目標】 視診、打診について理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 8 - 3 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
21	<p>【タイトル】 聴診、触診の復習</p> <p>【到達目標】 聴診、触診について理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 3 7 - 5 2 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
22	<p>【タイトル】 生命徴候、感覚検査の復習</p> <p>【到達目標】 生命徴候、感覚検査について理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 5 2－6 5 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
23	<p>【タイトル】 反射検査、代表的な臨床症状の復習</p> <p>【到達目標】 反射検査、代表的な臨床症状について理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 6 6－9 2 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
24	<p>【タイトル】 検査法の復習</p> <p>【到達目標】 検査法について理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備 考】</p> <p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p> <p>教科書 p 9 3－9 7 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター
25	<p>【タイトル】 一般臨床医学の総まとめ</p> <p>【到達目標】 これまで学修した内容について理解し説明できる。</p> <p>まとめ及び試験問題の解説</p> <p>【備 考】</p> <p>まとめ及び試験問題の解説をします。試験問題を見直しましょう。</p> <p>教科書 p 1－2 6 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p>	プロジェクター

2024年度

授業要項

科 目	外科学	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	西村 和典	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	外科学概論(改定第4版、南江堂)				
参考書	標準外科学(医学書院):一部抜粋をプリントで配布します。				
成績評価	定期試験(2回の予定)				
評価基準	定期試験で60点以上、講義出席率				
到達目標	国家試験に向けた学力と日常診療に役立つ知識の習得				
留意点	2010年～2020年における標準的～平均的な外科学を展開する予定です。				
授業外に必要な学習内容	補助資料として、年間に約120枚のプリントを用意します。数回の小テストもあります。				
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ授業を展開していく。教室での通常講義、さらに動画視聴も考えます。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	外科学とは、創傷とは	プリントを適宜配布
2	創傷治癒	プリントを適宜配布
3	熱傷、電撃傷、放射線障害	プリントを適宜配布
4	外科と炎症(1)	プリントを適宜配布
5	外科と炎症(2)	プリントを適宜配布
6	腫瘍:発がんと生物学的特徴	プリントを適宜配布
7	腫瘍:症状、診断、治療、予後	プリントを適宜配布
8	ショック(1)	プリントを適宜配布
9	ショック(2)、輸血・輸液(1)	プリントを適宜配布
10	輸血・輸液(2)	プリントを適宜配布
11	消毒と滅菌	プリントを適宜配布
12	手術(機器その他)	プリントを適宜配布
13	手術(総論・手技)	プリントを適宜配布
14	麻酔	プリントを適宜配布
15	移植と免疫	プリントを適宜配布

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	前半のまとめ	プリントを適宜配布
17	出血と止血	プリントを適宜配布
18	予備日（試験）	プリントを適宜配布
19	蘇生法	プリントを適宜配布
20	脳外科総論	プリントを適宜配布
21	脳梗塞、頭部外傷	プリントを適宜配布
22	頸部疾患、甲状腺疾患	プリントを適宜配布
23	呼吸器の検査、肺癌	プリントを適宜配布
24	縦隔腫瘍、胸膜疾患	プリントを適宜配布
25	気胸、先天性心疾患	プリントを適宜配布
26	弁膜症	プリントを適宜配布
27	心臓腫瘍、心膜炎、虚血性心疾患	プリントを適宜配布
28	心筋症、大動脈瘤	プリントを適宜配布
29	大動脈炎、末梢血管疾患	プリントを適宜配布
30	乳腺疾患	プリントを適宜配布
31	胸部心臓血管のまとめ	プリントを適宜配布
32	腹部疾患総論、胃と食道	プリントを適宜配布
33	胃癌、大腸癌	プリントを適宜配布
34	肝・胆・膵	プリントを適宜配布
35	アッペ・ヘモ・ヘルニア	プリントを適宜配布
36	腹部・消化器疾患のまとめ	プリントを適宜配布
37	予備日	プリントを適宜配布
38	一年のまとめ	プリントを適宜配布

2024年度

授業要項

科目	整形外科学	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	安藤 利泰	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	整形外科学(南江堂)				
参考書					
成績評価	定期試験の結果による。				
評価基準					
到達目標	整形外科学の基礎知識を習得し、将来臨床家として、医師との連携していく際に役立つ知識を学ぶ。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	<p>医師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。</p> <p>整形外科学一般の診察、検査、治療について学び、次いで外傷、スポーツ整形外科、リハビリテーション医学の概要を理解し、運動器(骨、関節、筋肉、神経)の各疾患の病態とその治療法について知識を得る。</p>				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	整形外科概論(1) 運動器の基礎知識 (骨・関節、軟部組織の知識)	プロジェクター
2	整形外科概論(2) 整形外科診察法	プロジェクター
3	整形外科概論(3) 整形外科検査法① (X線、CTについて)	プロジェクター
4	整形外科概論(3) 整形外科検査法② (MRI、骨密度、筋電図について)	プロジェクター
5	整形外科概論(4) 整形外科治療法 (保存療法・観血療法について)	プロジェクター
6	スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論	プロジェクター
7	骨折総論	プロジェクター
8	関節総論(脱臼・捻挫について)	プロジェクター
9	骨・関節感染症 (急性・慢性化膿性骨髄炎、骨関節結核など)	プロジェクター
10	軟部腫瘍 (血管腫・神経鞘腫など)	プロジェクター
11	骨腫瘍 (骨軟骨腫、内軟骨腫、骨巨細胞腫など)	プロジェクター
12	非感染性軟部・骨関節疾患① (変形性関節症、関節リウマチ)	プロジェクター
13	非感染性軟部・骨関節疾患② (痛風、偽痛風、離断性骨軟骨炎、骨粗鬆症など)	プロジェクター
14	全身性の骨・軟部疾患：先天性疾患 (軟骨無形成症、モルキオ病、マルファン症候群、大理石骨病 くる病、巨人症など)	プロジェクター
15	骨端症 (ベルテス病、オスグッド病、プラント病、セーバー病など)	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	四肢循環障害 (閉塞性血栓血管炎、レイノー病、深部静脈血栓症など)	プロジェクター
17	神経疾患 (橈骨・正中・尺骨神経障害、腕神経叢障害、坐骨神経障害)	プロジェクター
18	演習	プロジェクター
19	定期試験解答・解説	プロジェクター
20	全身性神経疾患① (脳性麻痺、ポリオ、ALS、進行性筋ジストロフィーなど)	プロジェクター
21	全身性神経疾患② (脊髄損傷、脊髄腫瘍など)	プロジェクター
22	身体各部の疾患：頸部 (頸椎骨折・脱臼、頸椎捻挫、むちうち症など)	プロジェクター
23	身体各部の疾患：胸椎部・腰椎部① (側弯症、圧迫骨折など)	プロジェクター
24	身体各部の疾患：腰椎部② (腰椎ヘルニア、分離すべり症、脊柱管狭窄症など)	プロジェクター
25	身体各部の疾患：肩甲帯・上腕部① (鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩関節脱臼)	プロジェクター
26	身体各部の疾患：肩甲帯・上腕部② (腱板断裂、野球肩、動揺性肩関節、インピンジメント症候群)	プロジェクター
27	身体各部の疾患：上腕・肘関節 (前腕骨骨折〔コーレス骨折、モンテギア骨折〕、肘関節脱臼、上腕骨外側上顆炎、肘内側側副靭帯損傷)	プロジェクター
28	身体各部の疾患：前腕・手関節 (舟状骨骨折、ボクサー骨折、マレットフィンガー、TFCC損傷、ばね指など)	プロジェクター
29	身体各部の疾患：骨盤部・大腿部① (骨盤骨折、大腿骨骨折、股関節脱臼)	プロジェクター
30	身体各部の疾患：骨盤部・大腿部② (化膿性股関節炎、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、ばね股 groin pain症候群、変形性股関節症)	プロジェクター
31	身体各部の疾患：膝関節① (膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼、膝関節周囲骨折、膝関節脱臼)	プロジェクター
32	身体各部の疾患：膝関節② (膝周囲の靭帯損傷〔MCL、LCL、ACL、PCL〕、半月板損傷)	プロジェクター
33	身体各部の疾患：膝関節③ (膝蓋腱炎、腸脛靭帯炎、変形性膝関節症、タナ障害など)	プロジェクター
34	身体各部の疾患：下腿・足関節 (果部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、足関節捻挫)	プロジェクター
35	身体各部の疾患：足部・足趾部 (アキレス腱断裂、アキレス腱周囲炎、扁平足、足根管症候群など)	プロジェクター
36	総まとめ	プロジェクター
37	演習	プロジェクター
38	定期試験解答・解説	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	鑑別診断学	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	安藤 利泰	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	「解剖学改訂版第2版」「柔道整復理論編改訂版第6版」「医療の中の柔道整復」				
参考書	配布資料				
成績評価	定期試験、小テスト、出席率を含めて総合評価する。				
評価基準					
到達目標	器質的な損傷について深く理解することで、非適応疾患に対する違和感を養う。				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜に資料配布 ・安易に休まないこと 				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖の知識、用語の理解度 				
授業内容	<p>医師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 外傷損傷、非外傷性疾患の知識を深めることで治療適応か否かの判断力を養うことを目的とする。そのために問診、視診、触診、神経学的検査、徒手検査などの評価でどこに注目するのか、見逃してはいけないポイント、非外傷性疾患の特徴などを踏まえながら講義していく。X線、CT、MRIなどの画像診断装置についてや、近年柔道整復師の現場で利用される機会が多い「超音波画像診断装置」の画像の特性、判断について講義を行う。臨床に出た際に柔道整復術の適応、不適応を判断する能力、医師、または他の医療従事者との連携をするための知識を習得する。</p>				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション、柔道整復術の適応範囲	
2	損傷に類似した症状を示す疾患① (背部、胸部、腹部、肩部、上肢、腰部)	
3	損傷に類似した症状を示す疾患② (化膿性炎症、皮膚疾患、軟部組織損傷)	
4	血流障害を合併する疾患	
5	末梢神経障害を合併する疾患①	
6	末梢神経障害を合併する疾患②	
7	脱臼骨折について	
8	開放性骨折①(上肢)	
9	開放性骨折①(下肢)	
10	病的骨折、病的脱臼	
11	意識障害を伴う外傷(骨折・脱臼)	
12	脊髄障害を伴う外傷(骨折・脱臼)	
13	呼吸運動障害を伴う外傷(骨折・脱臼)	
14	内臓損傷を伴う外傷(骨折・脱臼)	
15	高エネルギー外傷	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	医用画像の理解（総論）	プロジェクター
17	X線とは	プロジェクター
18	演習	プロジェクター
19	定期試験解答・解説	プロジェクター
20	X線撮影の実際① ～肩関節～	プロジェクター
21	X線撮影の実際② ～肘関節～	プロジェクター
22	X線撮影の実際③ ～手関節～	プロジェクター
23	X線撮影の実際④ ～膝関節～	プロジェクター
24	X線撮影の実際⑤ ～足関節～	プロジェクター
25	X線撮影の実際⑥ ～股関節～	プロジェクター
26	X線撮影の実際⑦ ～脊柱部～	プロジェクター
27	CTについて	プロジェクター
28	CT撮影の実際（頭部、胸部、腹部）	プロジェクター
29	MRIについて	プロジェクター
30	MRI撮影の実際（上肢）	プロジェクター
31	MRI撮影の実際（下肢、体幹）	プロジェクター
32	超音波画像診断装置について	プロジェクター
33	超音波画像診断装置の撮影の実際（上肢①）	プロジェクター
34	超音波画像診断装置の撮影の実際（上肢②）	プロジェクター
35	超音波画像診断装置の撮影の実際（下肢①）	プロジェクター
36	超音波画像診断装置の撮影の実際（下肢②）	プロジェクター
37	演習	プロジェクター
38	定期試験解答・解説	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	保険の仕組み	学科名	柔道整復学科	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	宮前 勤	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	全国柔道整復学校協会監修、『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』、医歯薬出版				
参考書	掠野美智子・田中耕太郎、『はじめての社会保障』、有斐閣アロマ				
成績評価	定期試験、レポートの提出状況				
評価基準	60点以上で合格とする。				
到達目標	様々な制度の基本的仕組みを理解するだけでなく、どうしたら、少子高齢化に突き進む日本の社会において、安心できる生活を維持していくかを考察できる能力を育てる。				
留意点	国家試験必修問題の領域であることも認知する。				
授業外に必要な学習内容	適宜、レポート課題の提出を求める場合がある。				
授業内容	行政用語はわかりにくいものです。わかりやすい表現に心がけます。「なぜ?」「どうして?」と考えていくうちに制度の構造を立体的につかめるように工夫します。誰を対象にした制度なのか、給付されるものは何か、そのファイナンス(財源)は誰が作り出すのか、誰が責任をもって運営しているのかなどをマクロな視点で理解することを求めます。公衆衛生学での領域もカバーする。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	社会保障の全体像、社会保障を学ぶ意義	プリント、プロジェクター
2	医療保険、高齢者医療制度	プリント、プロジェクター
3	国民医療費、医療供給体制、診療報酬	プリント、プロジェクター
4	生活保護、社会福祉制度、社会手当	プリント、プロジェクター
5	介護保険法その1	プリント、プロジェクター
6	介護保険法その2	プリント、プロジェクター
7	国民年金その1	プリント、プロジェクター
8	国民年金その2	プリント、プロジェクター
9	雇用保険、労災保険	プリント、プロジェクター
10	民間保険	プリント、プロジェクター
11	社会保障の歴史と構造その1	プリント、プロジェクター
12	社会保障の歴史と構造その2	プリント、プロジェクター
13	柔道整復師における療養費と療養費請求の具体的演習	プリント、プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	関係法規	学科名	柔道整復学科	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	柳樂聡治郎	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	「関係法規2024年度版」(公財)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
参考書	なし				
成績評価	試験(100%)				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満)				
到達目標	柔道整復師が業務に携わる上で必要となる「柔道整復師法」を理解し、業務を知る。医療従事者として必要となる医療福祉法規や、多数の規律事項を理解する。規則・罰則としてのみではなく「良質な医療の提供」するための体制として関係法規に関する知識を習得する。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	復習が重要。授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題を見直す などをして欲しい				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では基礎法学の学習、柔道整復師法の理解、さらにその他医療関係法規や社会福祉関係法規の理解に至るまで、多種多様な法規に関する応用能力の向上を図るため、質疑応答を繰り返す対話型授業を目指す。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	1. 法の意義と体系 p1 2. 関係法規 p3 3. 柔道整復師と患者の権利 p4	「関係法規」筆記具ノート
2	1. リスクマネジメントと医療事故調査制度 p5 2. 柔道整復師法の目的と定義 p9 3. 柔道整復師免許 p11	「関係法規」筆記具ノート
3	1. 柔道整復師名簿 p14	「関係法規」筆記具ノート
4	1. 柔道整復師の国家試験 p20 2. 柔道整復師の業務と業務範囲 p24	「関係法規」筆記具ノート
5	1. 柔道整復師の守秘義務 p27 2. 施術所の開設と休止 p29	「関係法規」筆記具ノート
6	1. 罰 則 p37 2. 指定登録機関と指定試験機関 p42 3. 免許と受験資格の特例 p45	「関係法規」筆記具ノート
7	1. 罰 則 p37 2. 指定登録機関と指定試験機関 p42 3. 免許と受験資格の特例 p45	「関係法規」筆記具ノート
8	1. 医療従事者の資格法 p47	「関係法規」筆記具ノート
9	1. 医療法 p66	「関係法規」筆記具ノート
10	1. 社会福祉関係法規 p87 2. 社会保険関係法規 p93	「関係法規」筆記具ノート
11	1. 個人情報保護関係 p101 2. 振り返り①	「関係法規」筆記具ノート
12	1. まとめ	「関係法規」筆記具ノート
13	1. 振り返り② 2. 総 評	「関係法規」筆記具ノート

2024年度

授業要項

科目	柔道整復の歴史	学科名	柔道整復学科	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	柳樂聡治郎	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	「柔道整復理論改定第7版」(公財)全国柔道整復学校協会 南江堂				
参考書	なし				
成績評価	試験(100%)				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満)				
到達目標	柔道整復術の歴史を学び、卒業の前に学生各人が「柔道整復師」について明確なイメージを持てるようになることを目指す。柔道整復師生涯学び続け、向上する柔道整復師としての資質を身につける。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	復習が重要。授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題を見直す などをして欲しい				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では最初に医学史として、医療発達の歴史、続いて柔道整復術の中世から現代に至る歴史を学ぶ。さらに現在の業務範囲について学習を進める。柔道整復師を取り巻く法規制をからみた現況を確認する。「人体に加わる力」「損傷時に加わる力」についても改めて整理し、学習する。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	1. 医学の発達 2. 柔道整復術と柔道整復師の歴史①	教科書・筆記道具
2	1. 柔道整復術と柔道整復師の歴史② p2	教科書・筆記道具
3	1. 柔道整復の業務範囲 2. 心得と倫理綱領 p10	教科書・筆記道具
4	1. 人体に加わる力 2. 損傷時に加わる力	教科書・筆記道具
5	1. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
6	2. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
7	3. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
8	4. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
9	5. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
10	6. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
11	7. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
12	8. 法にみる柔道整復	教科書・筆記道具
13	1. 振り返り② 2. 総評	教科書・筆記道具

授業要項

科目	職業倫理	学科名	柔道整復学科	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	柳樂聡治郎	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」(公財)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
参考書	なし				
成績評価	試験(100%)				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満)				
到達目標	「インフォームド・コンセント」や「患者中心の医療」について、柔道整復医療の現場を踏まえつつ柔道整復師の立場、患者の立場の双方の視点からリスクマネジメントができる職業人としての基礎を備える。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	復習が重要。授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題を見直す などをして欲しい				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では「医療従事者の職業倫理」「柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者対応」「柔道整復師の社会的責任と対応」などについてテキストにある事例を適宜グループワークしながら教授する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	1. 医療従事者の職業倫理 p49 2. 柔道整復師に必要な基本的倫理感と患者への対応 p52	教科書・筆記道具
2	1. 柔道整復師の社会的責任と対応① p56	教科書・筆記道具
3	1. 柔道整復師の社会的責任と対応② p59	教科書・筆記道具
4	1. ケーススタディ p62	教科書・筆記道具
5	1. ケーススタディ p62	教科書・筆記道具
6	1. ケーススタディ p62	教科書・筆記道具
7	医療に携わる者として	教科書・筆記道具
8	医療に携わる者として	教科書・筆記道具
9	医療に携わる者として	教科書・筆記道具
10	1. 法にみる柔道整復①	教科書・筆記道具
11	2. 法にみる柔道整復①	教科書・筆記道具
12	1. まとめ	教科書・筆記道具
13	2. まとめ	教科書・筆記道具

2024年度

授業要項

科目	柔道1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	水澤健人 村山晶子	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	イラスト柔道の形(五月書房)				
参考書	国際柔道連盟試合審判規定				
成績評価	S・A・B・Cの4段階で評価する。				
評価基準	①学習態度②出席日数③定期試験(実技)より評価する。				
到達目標	受け身、礼法、投げの形をマスターする。				
留意点	怪我負傷防止、装飾品類は外し長髪の場合は束ねる。やむを得ない事情(負傷等)以外は柔道着着用とする。				
授業外に必要な学習内容	適宜、柔道場にて自主練習を求める。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では2人1組で受身、投の形、約束乱取の講義を行う。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	事前説明・礼法・受身	筆記用具、動きやすい服装
2	受身(背臥位)・横受身	動きやすい服装
3	受身(背臥位)・横受身	動きやすい服装
4	受身(蹲踞)・回転運動	動きやすい服装
5	回転運動・前方回転受身	動きやすい服装
6	前方回転受身・柔道着の作法	柔道着
7	受身総復習・投の形(手技:浮落)	柔道着
8	投の形(手技:浮落)	柔道着
9	投の形(手技:背負投)	柔道着
10	投の形(手技:背負投)	柔道着
11	投の形(手技:肩車)	柔道着
12	投の形(腰技:浮腰)	柔道着
13	投の形(腰技:浮腰)	柔道着
14	投の形(腰技:払腰)	柔道着
15	投の形(腰技:払腰)	柔道着

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	投の形(腰技:釣込腰)	柔道着
17	投の形(腰技:釣込腰)	柔道着
18	定期試験	柔道着
19	定期試験解説・投の形(足技:送足払)	柔道着
20	投の形(足技:送足払)	柔道着
21	投の形(足技:支釣込足)	柔道着
22	投の形(足技:支釣込足)	柔道着
23	投の形(足技:内股)	柔道着
24	投の形(足技:内股)	柔道着
25	投の形総復習	柔道着
26	投の形総復習	柔道着
27	定期試験	柔道着
28	定期試験解説・打ち込み	柔道着
29	打ち込み・投げ込み	柔道着
30	打ち込み・投げ込み	柔道着

2024年度

授業要項

科 目	柔道2	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	水澤 健人 村山 晶子	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	イラスト柔道の形(五月書房)				
参考書	国際柔道連盟試合審判規定				
成績評価	S・A・B・Cの4段階で評価する。				
評価基準	①学習態度②出席日数③定期試験(実技) より評価する。				
到達目標	受け身、礼法、投げの形をマスターする。				
留意点	怪我負傷防止、装飾品類は外し長髪の場合は束ねる。やむを得ない事情(負傷等)以外は柔道着用とする。				
授業外に必要な学習内容	適宜、柔道場にて自主練習を求める。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ授業を行う。 本科目では2人1組で受身、投の形、約束乱取の講義を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	事前説明・受身・礼法確認	柔道着
2	投の形 確認	柔道着
3	投の形 確認	柔道着
4	投の形 手技1通り	柔道着
5	投の形 腰技1通り	柔道着
6	投の形 足技1通り	柔道着
7	投の形 確認テスト	柔道着
8	投技解説・打ち込み	柔道着
9	投技解説・打ち込み	柔道着
10	投技解説・打ち込み・投げ込み	柔道着
11	投技解説・打ち込み・投げ込み	柔道着
12	打ち込み・投げ込み・自由乱取	柔道着、デジタイマー
13	打ち込み・投げ込み・自由乱取	柔道着、デジタイマー
14	打ち込み・投げ込み・自由乱取	柔道着、デジタイマー
15	投の形 復習・約束乱取	柔道着

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	投の形 復習・約束乱取	柔道着
17	定期試験	柔道着
18	定期試験解説	柔道着
19	寝技 固技解説	柔道着
20	寝技 固技解説	柔道着
21	寝技 絞技紹介・寝技自由乱取	柔道着、デジタイマー
22	寝技 関節技紹介・寝技自由乱取	柔道着、デジタイマー
23	投の形・約束乱取	柔道着
24	投の形・約束乱取	柔道着
25	投の形・約束乱取	柔道着
26	投の形・約束乱取	柔道着
27	試験説明・模擬試験	柔道着、デジタイマー
28	定期試験①	柔道着、デジタイマー
29	定期試験②	柔道着、デジタイマー
30	定期試験解説・まとめ	柔道着

2024年度

授業要項

科 目	柔道3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(15コマ)
教 員	伊藤 裕司 小林 聖 村山 晶子	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	イラスト柔道の形(五月書房)				
参考書	認定実技審査要領・柔道国際審判規定・DVD柔道の形				
成績評価	成績評価は次により行う。①出席日数 ②学習態度				
評価基準	総合で60点以上を合格とする。				
到達目標	講道館規定による柔道1級に求められる受け身、形、約束乱取りの実力を仕上げる。				
留意点	柔道実技:実技認定試験(柔道)に合わせ礼法・前周り受身・投げの形・柔の形・約束練習を修得させ全員1級を取得させる技術を習得させる。ピアス、ネックレス、プレスレットをはずし、長髪の場合は束ねる。基本的には見学の際にも柔道着を着て見学するものとする。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では卒業を前に、講道館規定による柔道1級に求められる受け身、形、約束乱取りの実力を確実なものとするよう実技指導と解説を行い、総仕上げとする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	認定実技審査要領
2	坐礼・立礼・前方回転受身	認定実技審査要領
3	手技：浮落	認定実技審査要領
4	手技：背負投	認定実技審査要領
5	手技：肩車	認定実技審査要領
6	腰技：浮腰	認定実技審査要領
7	腰技：払腰	認定実技審査要領
8	腰技：釣込腰	認定実技審査要領
9	足技：送足払	認定実技審査要領
10	足技：支釣込足	認定実技審査要領
11	足技：内股	認定実技審査要領
12	総合練習①	認定実技審査要領
13	総合練習②	認定実技審査要領
14	総合練習③	認定実技審査要領
15	テスト	認定実技審査要領

授業要項

科目	基礎柔道整復学 1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(30コマ)
教員	山田浩正	領域	専門	実務経験	接骨院、病院
教科書	柔道整復学理論編改訂第6版 柔道整復学実技編改訂版第6版 包帯固定学				
参考書	プリント				
成績評価	筆記試験 定期試験 中間試験 小テスト(講義中実施)・出席日数・学習態度等で総合的に評価				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。身だしなみ、授業態度の悪い者、教員からの指示不履行者は定期試験より減点とする。				
到達目標	柔道整復で行う各種治療法、指導管理の基礎を身につける。損傷の評価や外傷予防についても柔道整復師に必要な知識として習得する。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	予習復習で教科書を読む。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて大切な部分を重点的に授業を行う。定期的に小テストを行い理解度の確認を行う。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション・授業について	教科書 パワーポイント プロジェクター
2	4-3筋の損傷 A筋の構造と機能	教科書 パワーポイント プロジェクター
3	4-3筋の損傷 B筋損傷の概説	教科書 パワーポイント プロジェクター
4	4-3筋の損傷 C筋損傷の分類	教科書 パワーポイント プロジェクター
5	4-3筋の損傷 D筋損傷の症状 E筋損傷の治癒機序 F筋損傷の予後4	教科書 パワーポイント プロジェクター
6	4-4腱の損傷 A腱の構造と機能 B腱損傷の概説	教科書 パワーポイント プロジェクター
7	4-4腱の損傷 C腱損傷の分類 D腱損傷の症状 E腱損傷の治癒機序	教科書 パワーポイント プロジェクター
8	4-5末梢神経の損傷 A神経の構造と機能 B神経損傷の概説 C神経損傷の分類	教科書 パワーポイント プロジェクター
9	4-5末梢神経の損傷 D末梢神経損傷の症状 E末梢神経損傷の治癒過程	教科書 パワーポイント プロジェクター
10	A肩関節部の軟部組織損傷 1 筋腱の損傷	教科書 パワーポイント プロジェクター
11	A肩関節部の軟部組織損傷 2スポーツ損傷	教科書 パワーポイント プロジェクター
12	A肩関節部の軟部組織損傷 3不安定症 4末梢神経障害	教科書 パワーポイント プロジェクター
13	前期振り返り	教科書 パワーポイント プロジェクター
14	定期試験解説	教科書 パワーポイント プロジェクター
15	B上腕部の軟部組織損傷 1橈骨神経障害	教科書 パワーポイント プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	B上腕部の軟部組織損傷 2尺骨神経障害	教科書 パワーポイント プロジェクター
17	C肘関節部の軟部組織損傷 1靭帯の損傷	教科書 パワーポイント プロジェクター
18	C肘関節部の軟部組織損傷 2野球肘	教科書 パワーポイント プロジェクター
19	C肘関節部の軟部組織損傷 3テニス肘 4その他	教科書 パワーポイント プロジェクター
20	D前腕部の軟部組織損傷 1前腕コンパートメント症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
21	D前腕部の軟部組織損傷 2腱交差症候群	教科書 パワーポイント プロジェクター
22	D前腕部の軟部組織損傷 3末梢神経障害	教科書 パワーポイント プロジェクター
23	E手関節部の軟部組織損傷 1三角線維軟骨複合体損傷 2ド・ケルバン病	教科書 パワーポイント プロジェクター
24	E手関節部の軟部組織損傷 2ド・ケルバン病	教科書 パワーポイント プロジェクター
25	E手関節部の軟部組織損傷 3末梢神経障害 4キーンベック病	教科書 パワーポイント プロジェクター
26	E手関節部の軟部組織損傷 5マーデルング変形	教科書 パワーポイント プロジェクター
27	F手部指部の軟部組織損傷 1腱靭帯の損傷	教科書 パワーポイント プロジェクター
28	F手部指部の軟部組織損傷 2その他手指部の変性疾患及び変形	教科書 パワーポイント プロジェクター
29	振り返り	教科書 パワーポイント プロジェクター
30	定期試験解説	教科書 パワーポイント プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	基礎柔道整復学2	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	相澤 佑樹	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学・理論編改訂第7版 P46～64、P300～324 柔道整復学・実技書				
参考書					
成績評価	定期試験、出席日数を含めて評価する。				
評価基準	出欠席、筆記試験				
到達目標	柔道整復師に必要な脱臼の定義、分類、症状や治癒経過などの脱臼の基礎的な知識を習得する。上肢脱臼について学び、理解を深める。				
留意点	各試験60点以上で合格。欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
授業外に必要な学習内容	教科書、配布資料で復習				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では骨折総論、前腕部骨折、軟部組織損傷について授業を進める。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション、柔道整復学を学ぶ意味	教科書 パワーポイント プロジェクター
2	関節の構造と機能 P46～50	教科書 パワーポイント プロジェクター
3	関節の構造と機能、関節の損傷の概説 P46～52	教科書 パワーポイント プロジェクター
4	関節部損傷の概説 P46～52	教科書 パワーポイント プロジェクター
5	脱臼定義、発生頻度、分類 P52～56	教科書 パワーポイント プロジェクター
6	脱臼の症状、合併症、整復障害、経過と予後 P56～58	教科書 パワーポイント プロジェクター
7	関節構成組織損傷 P59～64	教科書 パワーポイント プロジェクター
8	関節構成組織損傷 P59～64	教科書 パワーポイント プロジェクター
9	胸鎖関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼 P300～302	教科書 パワーポイント プロジェクター
10	胸鎖関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼 P300～302	教科書 パワーポイント プロジェクター
11	肩関節脱臼分類 各発生機序、頻度、分類詳細 P303	教科書 パワーポイント プロジェクター
12	反復性肩関節脱臼 バンカート損傷、ヒル・サックス損傷 P307	教科書 パワーポイント プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
13	まとめ、復習 P46～54、300～307	教科書 パワーポイント プロジェクター
14	定期試験解説	教科書 パワーポイント プロジェクター
15	肩関節後方脱臼 発生機序、症状、整復 P307～309	教科書 パワーポイント プロジェクター
16	肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼 発生機序、症状、整復 P309～310	教科書 パワーポイント プロジェクター
17	肩関節脱臼総復習 発生機序、症状、整復 P303～310	教科書 パワーポイント プロジェクター
18	肘関節脱臼分類、前腕両骨脱臼 発生機序、症状、整復 P310～313	教科書 パワーポイント プロジェクター
19	橈骨頭単独脱臼、肘内障 発生機序、症状、整復 P313～314	教科書 パワーポイント プロジェクター
20	肘関節脱臼総復習 P310～314	教科書 パワーポイント プロジェクター
21	遠位橈尺関節脱臼 分類、発生機序、症状、整復 P315～316	教科書 パワーポイント プロジェクター
22	橈骨手根関節脱臼 発生機序、症状、整復 P316	教科書 パワーポイント プロジェクター
23	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼 発生機序、症状、整復、固定、後療 P316～317	教科書 パワーポイント プロジェクター
24	手根中手(CM)関節脱臼 発生機序、症状、整復 P318～319	教科書 パワーポイント プロジェクター
25	第1指中指指節(MP)関節脱臼 発生機序、症状、整復 P319～320	教科書 パワーポイント プロジェクター
26	第1指以外の中指指節(MP)関節脱臼 発生機序、症状、整復 P320～321	教科書 パワーポイント プロジェクター
27	近位指節間(PIP)関節脱臼 分類、発生機序、症状、整復 P322～323	教科書 パワーポイント プロジェクター
28	遠位指節間(DIP)関節脱臼 概説、発生機序、症状、整復 P324	教科書 パワーポイント プロジェクター
29	総まとめ P307～324	教科書 パワーポイント プロジェクター
30	定期試験解説	教科書 パワーポイント プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	基礎柔道整復学 3	学科名	受動整復	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教員	安達英水	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	全国柔道整復学校協会「柔道整復学・理論編」改訂版第7版、南江堂				
参考書	配布資料				
成績評価	小テスト・出席・定期試験(2回)				
評価基準	定期試験60%以上、欠席は授業日数の1/3以上で単位不認定とする。				
到達目標	前腕～手関節～手指の疾患(骨折・脱臼・軟部組織損傷・その他)の理解				
留意点					
授業外に必要な学習内容	その場に応じて解説				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。・前腕から手指の骨折について学ぶ。・柔道整復理論の教科書に沿ってスライド及びプリントで解説する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	パワーポイント&プリント
2	手関節の機能解剖	パワーポイント&プリント
3	前腕両骨骨折	パワーポイント&プリント
4	ガレアッジ骨折・モンテギア骨折	パワーポイント&プリント
5	コーレス骨折	パワーポイント&プリント
6	スミス骨折	パワーポイント&プリント
7	バートン・ショウファー骨折	パワーポイント&プリント
8	手根骨骨折①(舟状骨骨折)	パワーポイント&プリント
9	手根骨骨折②(舟状骨以外の骨折)	パワーポイント&プリント
10	遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼・月状骨及び月状骨周囲脱臼	パワーポイント&プリント
11	TFCC損傷・ドッケルバン病	パワーポイント&プリント
12	手根管・ギヨン管症候群	パワーポイント&プリント
13	キーンベック病・マーデルング変形	パワーポイント&プリント
14	前腕・手関節部の徒手検査法	パワーポイント&プリント
15	前腕骨骨折	パワーポイント&プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	モンテギア・ガレアッジ骨折	パワーポイント&プリント
17	まとめ・復習・定期試験について	パワーポイント&プリント
18	中手骨骨折①	パワーポイント&プリント
19	中手骨骨折②	パワーポイント&プリント
20	基節骨骨折	パワーポイント&プリント
21	中節骨骨折	パワーポイント&プリント
22	末節骨骨折+マレットフィンガー	パワーポイント&プリント
23	CM関節、MP関節脱臼	パワーポイント&プリント
24	PIP関節、DIP関節脱臼	パワーポイント&プリント
25	MP関節、PIP関節、DIP関節側副靭帯損傷+ロッキング+ばね指	パワーポイント&プリント
26	デュピトラン拘縮、ヘバーデン結節	パワーポイント&プリント
28	ボタン穴変形、スワンネック変形	パワーポイント&プリント
29	定期試験解説	パワーポイント&プリント
30	まとめ・復習	パワーポイント&プリント

2024年度

授業要項

科目	基礎柔道整復学 4	学科名	柔道整復学科	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	宮前 勤	領域	専門	実務経験	病院
教科書	柔道整復学理論編改訂第7版P148～173、P293～299、P337～349				
参考書	病気が見える整形外科、解剖学、運動学、整形外科の教科書				
成績評価	定期試験・出席日数・小テスト・宿題の提出状況				
評価基準	定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	柔道整復師に必要な頭部、顔面部、体幹部の各損傷の知識を習得する。				
留意点	各試験60点以上で合格。欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
授業外に必要な学習内容	グーグルクラウドサービスにアップした確認問題の実施				
授業内容	頭部・体幹部の損傷は生命の危機に直結する危険な損傷である。頭部・体幹部損傷の所見をしっかりと理解し、見逃すことのないようしっかり鑑別できる能力を身に付ける。 前座として機能解剖学(運動学)の授業を実施する。 整形外科学、リハビリテーション医学とリンクさせる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	頭蓋骨その1	解剖学教科書 骨模型 プリント
2	頭蓋骨その2	解剖学教科書 骨模型 プリント
3	頭蓋骨その3	解剖学教科書 骨模型 プリント
4	頭部・顔面の骨折その1	プリント
5	頭部・顔面の骨折その2	プリント
6	頭部・顔面の骨折その3	プリント
7	顎関節脱臼その1	プリント
8	脊椎の運動その1	プリント
9	脊椎の運動その2	プリント
10	脊椎の運動その3	プリント
11	脊椎の運動その4	プリント
12	頸椎の骨折・脱臼その1	プリント
13	頸椎の骨折・脱臼その2	プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
14	頸椎の骨折・脱臼その3	プリント
15	胸腰椎の骨折・脱臼その1	プリント
16	胸腰椎の骨折・脱臼その2	プリント
17	肋骨骨折その1	プリント
18	肋骨骨折その2	プリント
19	顎関節症	プリント
20	頸部の軟損その1(頸椎疾患 総論)	プリント
21	頸部の軟損その2(頸椎椎間板ヘルニア他)	プリント
22	腕神経叢の機能解剖	プリント
23	頸部の軟損その3(腕神経叢麻痺)	プリント
24	頸部の軟損その4(胸郭出口症候群)	プリント
25	胸郭出口症候群 検査法まとめ	プリント
26	頸部の軟損その5(むち打ち損傷)	プリント
27	腰椎椎間板ヘルニアその1	プリント
28	腰椎椎間板ヘルニアその2	プリント
29	腰椎分離すべり症	プリント
30	腰部脊柱管狭窄症	プリント

2024年度

授業要項

科目	基礎柔道整復学5	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	宮本 義豊	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	解剖学 生理学 運動学 柔道整復学・理論編				
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 解剖学カラーアトラス				
成績評価	定期試験、小テスト等を鑑み総合的に判断する				
評価基準	各試験60点以上で合格、59点以下および欠席日数により単位不認定とする				
到達目標	正常な運動器の形態・機能面を理解し生理学的な作用も把握できるようにする				
留意点	解剖学、生理学の知識も復習する				
授業外に必要な学習内容	日常生活に於いて身体の動きを意識して、解剖学的にも名称をしっかりと理解していく				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ授業を展開する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	運動学の意味と柔道整復学との関連	
2	身体運動の力学と損傷時の力の種類	
3	身体運動の力学と損傷時に影響する要素	
4	骨の構造と形態と機能	
5	関節の構造と機能、痛みの評価	
6	筋肉の構造と機能、損傷の分類	
7	神経細胞の構造と機能、伝達のしくみ	
8	中枢神経のしくみと末梢神経の分類	
9	運動単位とサルコメア	
10	反射のメカニズムと分類	
11	異常反射と神経伝導路	
12	生理学的見地からみた痛みへのアプローチ	
13	上肢帯の骨格、運動、生理的作用	
14	まとめ	
15	解答と解説	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	下肢帯の骨格、運動、生理学的作用	
17	運動とホルモン分泌の作用	
18	運動によるストレスとホルモン	
19	筋収縮のためのエネルギー	
20	運動と筋力、筋肥大	
21	運動と筋線維タイプ	
22	骨格筋のトレーニング作用	
23	運動と筋疲労	
24	運動と呼吸機能の調節	
25	運動と循環機能の調節	
26	運動とエネルギー代謝	
27	急性痛と慢性痛について	
28	まとめ	
29	解答と解説	
30	総復習	

2024年度

授業要項

科 目	臨床柔道整復学 1	学科名	柔道整復	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	5 単位 (75 コマ)
教 員	小林 聖 佐藤 史人	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔整学校協会編、『柔道整復学・理論編 第7版』 競技者の外傷予防				
参考書	病気が見えるシリーズ				
成績評価	定期試験・出席日数・授業態度を考慮する				
評価基準	定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	柔道整復で行う各種治療法、指導管理の基礎を身につける。損傷の評価や外傷予防についても柔道整復師に必要な知識として習得する。 肩関節部に特化した授業構成で、基礎医学から臨床までを体系的に知識を習得する。				
留意点	60点以上を合格とする。小テストの結果を加算する場合もある。				
授業外に必要な学習内容	予習復習で教科を確認しておく。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて治療法において大切な部分を重点的に授業を行う。毎授業小テストを行い理解度の確認を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・授業について	
2	診察（問診・視診・触診・検査）	柔道整復理論
3	治療法、骨折の整復法	柔道整復理論
4	骨折の整復法 2（非観血的整復の要点）	柔道整復理論
5	脱臼の整復法（非観血的整復の要点）	柔道整復理論
6	軟部組織処置方法（初期処置）	柔道整復理論
7	固定法（固定の目的）	柔道整復理論
8	手技療法（基本型・禁忌）	柔道整復理論
9	運動療法（他動運動・自動運動・等容性収縮・等張性収縮・等速性収縮）	柔道整復理論
10	運動療法（OKC・CKC・単関節運動・多関節運動）	柔道整復理論
11	物理療法（電気療法・低周波・中周波・干渉波）	柔道整復理論
12	物理療法（温熱療法・伝導熱療法・輻射熱療法・変換熱療法）	柔道整復理論
13	物理療法（光線療法・寒冷療法・牽引療法）	柔道整復理論
14	指導管理・外傷予防	柔道整復理論
15	診察のまとめ	柔道整復理論

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	運動が生体に与える影響	競技者の外傷予防
17	運動とエネルギー代謝	競技者の外傷予防
18	運動と骨・筋肉	競技者の外傷予防
19	運動と呼吸・循環	競技者の外傷予防
20	運動とホルモン	競技者の外傷予防
21	競技者の運動生理学的特徴	競技者の外傷予防
22	競技者の外傷予防概論（疫学）	競技者の外傷予防
23	メディカルチェック—評価と測定	競技者の外傷予防
24	ストレッチングの方法と実際	競技者の外傷予防
25	部位別のストレッチ方法	競技者の外傷予防
26	スポーツテーピングの方法と実際（ホワイトテープ）	競技者の外傷予防
27	スポーツテーピングの方法と実際（キネシオテープ）	競技者の外傷予防
28	外傷予防に必要な筋カトレーニングの実際	競技者の外傷予防
29	外傷予防に必要な筋カトレーニングの実際2	競技者の外傷予防
30	競技別にみた外傷発生頻度	競技者の外傷予防
31	柔道における肩関節の外傷予防	競技者の外傷予防
32	水泳における体幹の傷害予防	競技者の外傷予防
33	バスケットボールにおける膝関節の外傷予防	競技者の外傷予防
34	サッカーにおける足関節の外傷予防	競技者の外傷予防
35	成長期の外傷予防	競技者の外傷予防
36	高齢者の外傷予防	競技者の外傷予防
37	高齢者の外傷要因（転倒予防）	競技者の外傷予防
38	オリエンテーション、骨の構造について	プロジェクター
39	骨の損傷① 骨の性状、骨損傷の程度	プロジェクター
40	骨の損傷② 外力の働き方、骨折線の方向による分類	プロジェクター
41	骨折の症状① 一般外傷症状、固有症状①	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
42	骨折の症状② 固有症状②、全身症状	プロジェクター
43	骨折の合併症① 併発症、続発症①	プロジェクター
44	骨折の合併症② 続発症②、後遺症	プロジェクター
45	小児骨折の特徴	プロジェクター
46	高齢者骨折の特徴	プロジェクター
47	骨折の治癒過程	プロジェクター
48	骨折総論のまとめ	プロジェクター
49	上肢帯（鎖骨・肩甲骨）の形態と機能	プロジェクター
50	鎖骨骨折① 特徴、発生机序	プロジェクター
51	鎖骨骨折② 症状、鑑別疾患	プロジェクター
52	鎖骨骨折③ 整復法、固定法	プロジェクター
53	肩甲骨骨折① 分類、発赤機序	プロジェクター
54	肩甲骨骨折② 症状、整復、固定法	プロジェクター
55	上肢帯骨折のまとめ	プロジェクター
56	試験解説	プロジェクター
57	上腕骨の形態と機能	プロジェクター
58	上腕骨近位骨折① 分類、特徴	プロジェクター
59	上腕骨近位骨折② 骨頭骨折、解剖頸骨折	プロジェクター
60	腕骨近位骨折③ 外科頸骨折①	プロジェクター
61	上腕骨近位骨折④ 外科頸骨折②	プロジェクター
62	上腕骨近位骨折⑤ 小・大結節骨折、骨端線離開	プロジェクター
63	上腕骨近位骨折のまとめ	プロジェクター
64	上腕骨骨幹部骨折①	プロジェクター
65	上腕骨骨幹部骨折②	プロジェクター
66	上腕骨遠位端部骨折② 顆上骨折①	プロジェクター
67	上腕骨遠位端部骨折② 顆上骨折②	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
68	上腕骨遠位端部骨折③ 外顆骨折①	プロジェクター
69	上腕骨遠位端部骨折④ 外顆骨折②、内側上顆骨折	プロジェクター
70	上腕骨遠位端部骨折まとめ	プロジェクター
71	前腕近位端部骨折① 橈骨頭骨折①	プロジェクター
72	前腕近位端部骨折② 橈骨頭骨折② 肘頭骨折①	プロジェクター
73	前腕近位端部骨折③ 肘頭骨折②	プロジェクター
74	総まとめ	プロジェクター
75	試験解説	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	臨床柔道整復学 2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(75コマ)
教員	横山 俊英、村山 晶子	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第7版、柔道整復学・実技編 改訂版第2版 スポーツ医学検定公式テキスト2級3級改訂版				
参考書	解剖学・運動学の教科書、配布資料				
成績評価	ノート、小テスト、出席、授業態度、定期試験を総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。 ノートや小テストの点数を加算する場合もある。				
到達目標	下肢の運動器疾患を学び、鑑別能力を身につける。 臨床現場で的確に判断できる知識を習得します。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	骨盤部、股関節部～足部の筋骨格系の解剖学的知識を予習すること。 教科書やノート、授業プリントを参考に復習すること。 予習として授業予定の教科書の内容を読み、わからない単語については事前に調べること。 講義の理解度を確認する小テストを授業内に行いますので、教科書や配布資料を参考に復習すること。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、下肢の骨折についての講義を行います。解剖学・運動学などにより下肢の構造や機能を正しく理解したうえで、発生機序・症状などから鑑別する能力を学習し治療法へ繋げていく臨床的な知識を習得できるよう学習しましょう。主に講義形式で実施しますが、適宜グループワークおよびディスカッションを行います。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	プリント
2	股関節部の解剖	プリント
3	股関節部の解剖	プリント
4	股関節部の軟部組織損傷	プリント
5	股関節部の軟部組織損傷	プリント
6	膝関節部の解剖	プリント
7	膝関節部の解剖	プリント
8	膝関節部の解剖	プリント
9	膝関節部の解剖	プリント
10	大腿部の軟部組織損傷	プリント
11	大腿部の軟部組織損傷	プリント
12	膝関節部の軟部組織損傷	プリント
13	膝関節部の軟部組織損傷	プリント
14	まとめ	プリント
15	試験解説	プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	下腿部の解剖	プリント
17	下腿部の解剖	プリント
18	下腿部の軟部組織損傷	プリント
19	下腿部の軟部組織損傷	プリント
20	足関節部の解剖	プリント
21	足関節部の解剖	プリント
22	足関節部の軟部組織損傷	プリント
23	股関節脱臼	プリント
24	股関節脱臼	プリント
25	膝蓋骨脱臼	プリント
26	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼	プリント
27	足部・足趾部の解剖	プリント
28	足部・足趾部の脱臼	プリント
29	試験解説	プリント
30	まとめ	プリント
31	スポーツ外傷1	プリント
32	スポーツ外傷2	プリント
33	スポーツ外傷3	プリント
34	スポーツ外傷4	プリント
35	スポーツ外傷5	プリント
36	スポーツ外傷6	プリント
37	スポーツ外傷7	プリント
38	スポーツ外傷8	プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
39	ガイダンス・下肢の骨折	プロジェクター
40	骨盤骨骨折	プロジェクター
41	骨盤骨骨折 (骨盤骨単独骨折)	プロジェクター
42	骨盤骨骨折 (骨盤骨単独骨折)	プロジェクター
43	骨盤骨骨折 (骨盤輪骨折)	プロジェクター
44	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
45	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
46	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
47	大腿骨骨折 (大腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
48	大腿骨骨折 (大腿部骨幹部骨折)	プロジェクター
49	大腿骨骨折 (大腿部骨幹部骨折)	プロジェクター
50	大腿骨骨折 (大腿部骨幹部骨折)	プロジェクター
51	大腿骨骨折 (大腿部遠位端部骨折)	プロジェクター
52	大腿骨骨折 (大腿部遠位端部骨折)	プロジェクター
53	大腿骨骨折 (大腿部遠位端部骨折)	プロジェクター
54	膝蓋骨骨折	プロジェクター
55	下腿骨骨折 (下腿骨近位端部骨折)	プロジェクター
56	まとめ	プロジェクター
57	試験解説	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
58	下腿骨骨折（下腿骨近位端部骨折）	プロジェクター
59	下腿骨骨折（下腿骨近位端部骨折）	プロジェクター
60	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
61	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
62	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
63	下腿骨骨折（下腿骨骨幹部骨折）	プロジェクター
64	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
65	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
66	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
67	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
68	下腿骨骨折（下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼）	プロジェクター
69	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
70	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
71	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
72	足・足趾骨折（足根骨骨折）	プロジェクター
73	足・足趾骨折（中足骨骨折）	プロジェクター
74	足・足趾骨折（趾骨骨折）	プロジェクター
75	試験解説	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	臨床柔道整復学3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(75コマ)
教員	柳楽 聡治郎 佐藤 史人	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	「柔道整復学・実技編 第2版」、「柔道整復学・理論編 第7版」、解剖学、生理学、運動学				
参考書	筋骨格系のキネシオロジー 解剖学カラーアトラス				
成績評価	定期試験、小テスト等を鑑み総合的に判断する				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満) 各試験60点以上で合格、59点以下および欠席日数により単位不認定とする				
到達目標	検査・整復・固定の基本を理解、習得し、現場で使える技術を身に着ける。 正常な運動器の形態・機能面を理解し生理学的な作用も把握できるようにする。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。 解剖学、生理学の知識も復習する。				
授業外に必要な学習内容	・柔道整復学の知識いままで学んだことを整理しておくこと、分からないことをそのままにしないこと ・日常生活に於いて身体の動きを意識して、解剖学的にも名称をしっかりと理解していく				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 正常な運動器(骨・筋・関節構造組織)の形態・機能面を理解することで、臨床における外傷・障害に対する対応をできる判断力を身に付ける 柔道整復理論(骨折)の発生機序、病態、整復法、固定法の理解を深める。 関連項目(脱臼、軟部組織損傷、整形外科疾患)との比較等を含め、その鑑別についても行う。 理解度に応じて、授業の順番を入れ替えて行うことがある				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	骨折総論 分類	柔道整復理論編
2	骨折総論 症状 合併症(併発 続発 後遺症)	柔道整復理論編
3	小児骨折	柔道整復理論編
4	高齢者骨折	柔道整復理論編
5	骨折の治癒に影響を与える因子	柔道整復理論編
6	関節の損傷 脱臼総論	柔道整復理論編
7	脱臼総論	柔道整復理論編
8	16回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
9	17回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
10	18回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
11	19回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
12	20回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
13	21回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
14	22回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
15	23回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	24回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
17	25回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
18	26回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
19	27回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
20	28回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
21	29回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
22	30回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
23	31回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
24	32回国家試験問題過去問を解く	柔道整復理論編
25	シエーマ問題を解く	柔道整復理論編
26	シエーマ問題を解く	柔道整復理論編
27	シエーマ問題を解く	柔道整復理論編
28	シエーマ問題を解く	柔道整復理論編
29	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復理論編
30	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復理論編
31	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復理論編
32	長文問題 臨床問題を解く	柔道整復理論編
33	気になる問題を抜粋し説く	柔道整復理論編
34	気になる問題を抜粋し説く	柔道整復理論編
35	気になる問題を抜粋し説く	柔道整復理論編
36	気になる問題を抜粋し説く	柔道整復理論編
37	気になる問題を抜粋し説く	柔道整復理論編
38	気になる問題を抜粋し説く	柔道整復理論編
39	運動学の意味と柔道整復学との関連	プロジェクター、PC
40	身体運動の力学と損傷時の力の種類	プロジェクター、PC
41	身体運動の力学と損傷時に影響する要素	プロジェクター、PC

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
42	骨の構造と形態と機能	プロジェクター、PC
43	関節の構造と機能、痛みの評価	プロジェクター、PC
44	筋肉の構造と機能、損傷の分類	プロジェクター、PC
45	神経細胞の構造と機能、伝達のしくみ	プロジェクター、PC
46	中枢神経のしくみと末梢神経の分類	プロジェクター、PC
47	運動単位とサルコメア	プロジェクター、PC
48	反射のメカニズムと分類	プロジェクター、PC
49	異常反射と神経伝導路	プロジェクター、PC
50	生理学的見地からみた痛みへのアプローチ	プロジェクター、PC
51	上肢帯の骨格、運動、生理的作用	プロジェクター、PC
52	下肢帯の骨格、運動、生理的作用	プロジェクター、PC
53	運動とホルモン分泌の作用	プロジェクター、PC
54	運動によるストレスとホルモン	プロジェクター、PC
55	筋収縮のためのエネルギー	プロジェクター、PC
56	運動と筋力、筋肥大	プロジェクター、PC
57	試験解説	プロジェクター、PC
58	運動と筋線維タイプ	プロジェクター、PC
59	骨格筋のトレーニング作用	プロジェクター、PC
60	運動と筋疲労	プロジェクター、PC
61	運動と呼吸機能の調節	プロジェクター、PC
62	運動と循環機能の調節	プロジェクター、PC
63	運動とエネルギー代謝	プロジェクター、PC
64	急性痛と慢性痛について	プロジェクター、PC
65	上肢の筋と神経支配 その①	プロジェクター、PC
66	上肢の筋と神経支配 その②	プロジェクター、PC
67	上肢の筋と神経支配 その③	プロジェクター、PC

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
68	上肢の筋と神経支配 その④	プロジェクター、PC
69	下肢の筋と神経支配 その①	プロジェクター、PC
70	下肢の筋と神経支配 その②	プロジェクター、PC
71	下肢の筋と神経支配 その③	プロジェクター、PC
72	下肢の筋と神経支配 その④	プロジェクター、PC
73	総復習	プロジェクター、PC
74	まとめ	プロジェクター、PC
75	試験解説	プロジェクター、PC

2024年度

授業要項

科目	臨床柔道整復学4	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	村山晶子	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第6版、柔道整復学・実技編 改訂版第2版				
参考書	配布資料				
成績評価	小テスト、出席、授業態度、定期試験を総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	外傷に関わる基礎知識や脱臼、軟部組織損傷を学び、柔道整復師として臨床や国家試験に必要な知識を身につける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	身体各部の解剖的な知識の予習 授業内容の復習				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて授業を行う。各ポイントを学ぶことで、損傷に対する臨床的な思考を身につける。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター
2	脱臼の総論	プロジェクター
3	鎖骨部の脱臼	プロジェクター
4	肩関節脱臼	プロジェクター
5	肩関節脱臼、肘内障	プロジェクター
6	肘関節脱臼	プロジェクター
7	手関節部の脱臼	プロジェクター
8	手指部の脱臼、顎関節脱臼	プロジェクター
9	体幹部の脱臼、股関節脱臼	プロジェクター
10	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼	プロジェクター
11	足部の脱臼	プロジェクター
12	試験解説	プロジェクター
13	軟部組織損傷の総論	プロジェクター
14	軟部組織損傷の総論	プロジェクター
15	頭部、顔面の軟部組織損傷	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	頸部の軟部組織損傷	プロジェクター
17	胸部・背部・腰部の軟部組織損傷	プロジェクター
18	肩部の軟部組織損傷	プロジェクター
19	上腕部の軟部組織損傷	プロジェクター
20	肘部の軟部組織損傷	プロジェクター
21	前腕部の軟部組織損傷	プロジェクター
22	手部の軟部組織損傷	プロジェクター
23	股部の軟部組織損傷	プロジェクター
24	大腿部の軟部組織損傷	プロジェクター
25	膝部の軟部組織損傷	プロジェクター
26	下腿の軟部組織損傷	プロジェクター
27	足部の軟部組織損傷	プロジェクター
28	演習	プロジェクター
29	試験解説	プロジェクター
30	演習	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	柔道整復実技 1	学科名	柔道整復学科	履修年次	1年次
教員	樋口 知行 村山 晶子 小林 聖	教授法	実技	単位数コマ	5単位 (75コマ)
教科書	「包帯固定学 第2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂 運動療法のための機能解剖学的触診実技 改訂第2版				
参考書	解剖学 改訂版第2版 配布資料				
成績評価	定期試験(口頭試問および実技試験)、小テスト、授業態度、出席日数等を踏まえ総合的に判断し評価する				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復施術の基本となる包帯の目的を理解し、基本包帯を中心に身体各所に応じた包帯固定を施せるようになる。 ・運動器の形態、機能面を理解することで人体の構造への理解を深める。 				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外でも復習をし、適宜練習すること。 ・欠席はたとえ一回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まない。 				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖の知識、用語の理解度 ・実技内容を一人で復習することはとても難しいため、クラス内で協力して、復習・練習を積極的に行うこと。 				
授業内容	<p>柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書と配布資料を用いて授業を行う。 解剖の知識をもとに実際に身体に触れて触診技術を深めていく。 柔道整復師として包帯など衛生材料を取り扱うために必要な知識・技術を身に着ける。 また施術者・患者の両方の立場を体験することで基本的な包帯法に加え、臨床現場での応用的な固定の考え方・包帯の技術を習得する。</p> <p>※授業の進度によって内容の変更・追加・削減を行うことがある。</p>				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	固定とは(目的・材料の種類)	包帯
3	巻軸包帯の基本法(軸づくり、環行・螺旋・折転・蛇行・8字帯の巻き方)	包帯
4	前腕の被覆包帯:折転帯	包帯
5	手首の被覆包帯:麦穂帯	包帯
6	肘の被覆包帯:亀甲帯	包帯
7	肩の被覆包帯:麦穂帯	包帯
8	復習	包帯
9	指の包帯:隻指帯	包帯
10	指の包帯:全指帯	包帯
11	指の包帯:指頭包か帯	包帯
12	指の包帯:総指包か帯	包帯

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
13	復習	包帯
14	提肘三角巾	三角巾
15	頭部・顔面部の包帯：ヒポクラテス帽子帯・投石帯	包帯
16	復習	包帯
17	定期試験①	包帯
18	試験の振り返り・復習	包帯
19	デゾー包帯(第1帯・第2帯)	包帯
20	デゾー包帯(第3帯・第4帯)	包帯
21	ヴェルポー包帯	包帯
22	ヴェルポー包帯・ジュール包帯	包帯
23	ジュール包帯	包帯
24	復習	包帯
25	下腿の被覆包帯：折転帯	包帯
26	大腿の被覆包帯：折転帯	包帯
27	股関節の被覆包帯：麦穂帯	包帯
28	膝の被覆包帯：亀甲帯	包帯
29	復習	包帯
30	足関節の被覆包帯：鍔帯・麦穂帯	包帯
31	踵の被覆包帯：亀甲帯・三節帯	包帯
32	足趾の被覆包帯：総趾包か帯	包帯
33	復習	包帯
34	テーピング	テーピング
35	晒による固定	晒
36	定期試験②	包帯
37	試験の振り返り・まとめ	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
38	ガイダンス	
39	肩甲骨	
40	鎖骨、肩鎖関節、胸鎖関節	
41	上腕骨	
42	橈骨・尺骨	
43	肘関節	
44	手根骨	
45	指骨	
46	骨盤	
47	仙骨、仙腸関節	
48	大腿骨	
49	膝蓋骨、脛骨、腓骨	
50	膝関節	
51	足根骨	
52	足関節	
53	足の指骨	
54	復習	
55	定期試験	
56	試験講評	
57	三角筋、大胸筋	
58	回旋筋腱板	
59	広背筋、烏口腕筋	
60	僧帽筋、菱形筋、肩甲挙筋	
61	小胸筋、前鋸筋	
62	上腕部の筋	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
63	前腕屈筋群	
64	前腕屈筋群	
65	前腕伸筋群	
66	前腕伸筋群	
67	殿部の筋	
68	縫工筋、大腿筋膜張筋	
69	大腿四頭筋、大腿二頭筋	
70	半腱様筋、半膜様筋	
71	下腿（前脛骨筋、長指伸筋、長・短腓骨筋）	
72	下腿（後脛骨筋、下腿三頭筋）	
73	復習	
74	定期試験	
75	試験講評	

2024年度

授業要項

科目	柔道整復実技 2	学科名	柔道整復	履修年次	2 年次
教員	安達 英水 柳楽 聡治郎 宮前 勤	教授法	実技	単位数コマ	5 単位 (75 コマ)
		領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	「柔道整復学・実技編 第2版」、「柔道整復学・理論編 第7版」				
参考書	配布資料				
成績評価	定期試験・出席日数・授業態度(身だしなみ等)				
評価基準	S評価(90点以上) A評価(80点以上) B評価(70点以上) C評価(60点以上) D評価(60点未満) 60点以上を合格とする。				
到達目標	検査・整復・固定の基本を理解、習得し、現場で使える技術を身に着ける。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。 実技をするにふさわしい恰好で出席すること。				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・整復・固定の練習。座学の確認。 ・下肢の解剖学、柔道整復学の知識 ・実技内容を一人で復習することはとても難しいため、クラス内で協力して、復習・練習を積極的に行うこと、実技は一人ではできない。すすんで他の人と協力すること。 				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 柔道整復理論(骨折)の発生機序、病態、整復法、固定法の理解を深める。 認定実技試験に繋がる授業を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	鎖骨骨折 1 (整復)	タオル
3	鎖骨骨折 2 (固定)	鎖骨バンドホワイト38・鎖骨パット
4	鎖骨骨折 3 (固定)	同上
5	鎖骨骨折 4 (練習回)	同上
6	上腕骨外科頸骨折 1 (整復)	タオル・柔道帯
7	上腕骨外科頸骨折 2 (整復)	同上
8	上腕骨外科頸骨折 3 (整復)	同上
9	コーレス骨折 1 (整復)	
10	コーレス骨折 2 (副子作り)	クラーメル副子・厚紙副子
11	コーレス骨折 3 (固定)	クラーメル副子・厚紙副子
12	コーレス骨折 4 (固定)	クラーメル副子・厚紙副子
13	上腕骨骨幹部骨折 1 (整復)	スタレ副子作り
14	上腕骨骨幹部骨折 2 (固定)	ミッテルドルフ三角副子スタレ副子
15	上腕骨骨幹部骨折 3 (固定)	同上

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	第5中手骨頸部骨折1（副子作り）	アルフェンスブライトン・包帯
17	第5中手骨頸部骨折2（固定）	アルフェンスブライトン・包帯
18	肩鎖関節脱臼1（整復）	鎖骨パット・ホワイト50 枕子・三角巾
19	肩鎖関節脱臼2（固定）	鎖骨パット・ホワイト51 枕子・三角巾
20	肩鎖関節脱臼3	鎖骨パット・ホワイト52 枕子・三角巾
21	肩鎖関節脱臼4	鎖骨パット・ホワイト53 枕子・三角巾
22	肩関節脱臼1（整復）	
23	肩関節脱臼2（副子作り）	厚紙副子
24	肩関節脱臼3（固定）	包帯・厚紙副子・枕子
25	肩関節脱臼4（固定）	包帯・厚紙副子・枕子
26	肘関節脱臼1（整復）	
27	肘関節脱臼2（固定）	クラーメル副子・三角巾
28	肘関節脱臼3	クラーメル副子・三角巾
29	肘関節脱臼4	クラーメル副子・三角巾
30	手第2指PIP関節脱臼1（副子作り）	アルフェンス
31	手第2指PIP関節脱臼2（固定）	アルフェンス
32	肘内障1（整復）	
33	肘内障2	
34	肘内障3	
35	腱板損傷1（検査法）	
36	腱板損傷2	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
37	上腕二頭筋長頭腱損傷 1 (検査法)	
38	上腕二頭筋長頭腱損傷 2	
39	股関節脱臼機序 整復	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第8版
40	股関節脱臼機序 整復固定	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第9版
41	股関節後方脱臼整復	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第10版
42	股関節後方脱臼回転法	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第11版
43	股関節前方脱臼デパルマ法 コッフェル法	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第12版
44	膝蓋骨脱臼整復 膝蓋骨について	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第13版
45	下腿骨骨幹部骨折クラメルシーネを作る	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第14版
46	下腿骨骨幹部骨折固定	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第15版
47	下腿骨骨幹部骨折 すべて麦穂帯で巻く	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第16版
48	大腿骨頸部骨折 脆弱性骨折とは	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第17版
49	ホイットマン外転整復法 ヒールパルムテスト	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第18版
50	ホイットマン外転整復法 ヒールパルムテスト	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第19版
51	股関節牽引法・コッフェル法・膝蓋骨脱臼・大腿骨頸部骨折整復練習	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第20版
52	実技試験	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第21版
53	実技試験評価総合評価	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第22版
54	拇指背側脱臼について	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第23版
55	踵骨骨折整復法 (大本法)	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第24版
56	ハムストリングス損傷 認定実技とは	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第25版
57	ハムストリングス損傷 チャーリーホース包帯固定	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第26版
58	大腿四頭筋打撲	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第27版
59	膝の触診膝蓋骨・裂隙・跳動・内側靭帯損傷	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第28版
60	膝の触診膝蓋骨・裂隙・跳動・内側靭帯・外側靭帯・足背動脈	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第29版
61	膝十字靭帯損傷ラックマン・サグサイン・前方引き出し	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第30版
62	膝半月板損傷マックマレー 圧アプレー	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第31版

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
63	足の解剖 二分靭帯・下駄骨折の部位	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第32版
64	足関節捻挫 内外果骨折触診の意味	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第33版
65	足外側靭帯局所副子固定	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第34版
66	足外側靭帯局所副子固定 トング型	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第35版
67	アキレス腱断裂の固定法	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第36版
68	膝部軟部組織検査法全般	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第37版
69	下腿三頭筋肉ばなれ	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第38版
70	膝関節 x サポートテーピング	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第39版
71	後期実技試験	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第40版
72	試験の振り返り・復習	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第41版
73	足関節テーピング固定	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第42版
74	下駄骨折固定具作製熱可塑性素材を使う	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第43版
75	包帯固定上肢の冠名骨折を復習	柔道整復学・実技編 第2版 「柔道整復学・理論編 第44版

2024年度

授業要項

科目	柔道整復実技3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	樋口 知行	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学理論編(南江堂), 柔道整復実技(南江堂), 包帯固定学				
参考書	プリント				
成績評価	実技試験と卒業見込み判定試験の結果で成績評価を行う。				
評価基準	実技試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定する。				
到達目標	認定実技審査合格水準を超えること				
留意点	欠席はたとえ1回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	授業中に配布したプリントの復習。 この実習については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しい。 クラス内で協力して、復習・練習の機会を積極的に持ってほしい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では次の内容を教授する。 基本包帯法から確認し、柔道整復実技編に記載されている固定法や整復法を中心に確認していく。 また、柔道整復学理論編と柔道整復学実技編に記載されている徒手検査法を学ぶ。 それ以外にも、臨床で実際に使える整復法や固定法や徒手検査法を学ぶ。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	プロジェクター
2	上肢の検査法①	プロジェクター
3	上肢の検査法②	プロジェクター
4	上肢の検査法③	プロジェクター
5	上肢の検査法④	プロジェクター
6	下肢の検査法①	プロジェクター
7	下肢の検査法②	プロジェクター
8	下肢の検査法③	プロジェクター
9	下肢の検査法④	プロジェクター
10	体幹部の検査法①	プロジェクター
11	体幹部の検査法②	プロジェクター
12	体幹部の検査法③	プロジェクター
13	体幹部の検査法④	プロジェクター
14	復習	プロジェクター
15	定期試験①	プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	鎖骨骨折の整復法・固定法	プロジェクター
17	上腕骨外科頸骨折の整復法	プロジェクター
18	上腕骨骨幹部骨折の固定法	プロジェクター
19	橈骨遠位端骨折の整復法・固定法	プロジェクター
20	肩鎖関節脱臼の整復法・固定法	プロジェクター
21	肩関節脱臼の整復法・固定法	プロジェクター
22	肘関節脱臼の整復法・固定法	プロジェクター
23	腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱炎の検査法	プロジェクター
24	膝関節部損傷①	プロジェクター
25	膝関節部損傷②	プロジェクター
26	足関節外側靭帯損傷の検査法	プロジェクター
27	下肢損傷の固定法	プロジェクター
28	復習	プロジェクター
29	定期試験②	プロジェクター
30	まとめ	プロジェクター

2024年度

授業要項

科目	柔道整復実技4	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	5単位(75コマ)
教員	山田 浩正 小林 聖 樋口 知行	領域	専門	実務経験	接骨院、病院
教科書	柔道整復学理論編改訂第7版 柔道整復学実技編改訂版第2版 包帯固定学				
参考書	プリント				
成績評価	定期試験 中間試験 小テスト(講義中実施)・出席日数・学習態度等で総合的に評価。卒業見込み判定試験の成績も判定基準とする。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。身だしなみ、授業態度の悪い者、教員からの指示不履行者は定期試験より減点とする。				
到達目標	認定実技審査合格水準を超えること				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まないこと。				
授業外に必要な学習内容	授業中に配布したプリントの復習。この実習については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しい。クラス内で協力して、復習・練習の機会を積極的に持ってほしい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、認定実技審査対策として必要な技能を学ぶとともに、臨床に幅広く応用できるようポイントをおさえていく。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	ガイダンス①	教科書 パワーポイント プロジェクター
2	鎖骨骨折 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
3	鎖骨骨折 診察及び整復実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
4	鎖骨骨折 固定実技(リング固定)	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
5	上腕骨外科頸外転型骨折 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
6	上腕骨外科頸外転型骨折 診察及び整復実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
7	上腕骨骨幹部骨折 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
8	上腕骨骨幹部骨折ミッテルドルフ三角副子 固定実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
9	コーレス骨折 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
10	コーレス骨折 診察及び整復実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
11	コーレス骨折 診察及び整復実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
12	コーレス骨折 固定実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
13	第5指中手骨頸部骨折 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
14	第5指中手骨頸部骨折 固定実技①	教科書 パワーポイント プロジェクター
15	手第2指背側脱臼 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	手第2指背側脱臼 固定実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
17	第1回整復試験	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
18	第1回固定試験	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
19	肩鎖関節上方脱臼 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
20	肩鎖関節上方脱臼 診察及び整復実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
21	肩鎖関節上方脱臼 診察及び整復実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
22	肩鎖関節上方脱臼 固定実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
23	肩関節前方脱臼 診察及び整復実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
24	肩関節前方脱臼 診察及び整復実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
25	肩関節前方脱臼 診察及び整復実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
26	肩関節前方脱臼 固定実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
27	肘関節後方脱臼 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
28	肘関節後方脱臼 診察及び評価①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
29	肘関節後方脱臼 固定実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
30	下腿骨骨幹部骨折 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
31	下腿骨骨幹部骨折 固定実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
32	肋骨骨折 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
33	肋骨骨折 固定実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
34	振り返り	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
35	第2回整復試験	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
36	第2回固定試験	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
37	総まとめ①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
38	総まとめ②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
39	軟部組織損傷 肘内障 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
40	軟部組織損傷 肘内障 診察及び修復実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
41	軟部組織損傷 腱板損傷 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
42	軟部組織損傷 腱板損傷 診察及び検査実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
43	軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
44	軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷 診察及び検査実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
45	軟部組織損傷 ハムストリング肉ばなれ 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
46	軟部組織損傷 ハムストリング肉ばなれ 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
47	軟部組織損傷 ハムストリング肉ばなれ 診察及び検査実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
48	軟部組織損傷 大腿四頭筋打撲 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
49	軟部組織損傷 大腿四頭筋打撲 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
50	軟部組織損傷 大腿四頭筋打撲 診察及び検査実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
51	軟部組織損傷 膝関節側副靭帯損傷 総論	教科書 パワーポイント プロジェクター
52	軟部組織損傷 膝関節側副靭帯損傷 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
53	膝関節内側側副靭帯損傷 Xサポートテープ 固定実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
54	膝関節内側側副靭帯損傷 Xサポートテープ 固定実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
55	定期試験	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
56	軟部組織損傷 膝関節十字靭帯損傷 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
57	軟部組織損傷 膝関節十字靭帯損傷診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
58	軟部組織損傷 膝関節半月板損傷 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
59	軟部組織損傷 膝関節半月板損傷 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
60	軟部組織損傷 膝関節半月板損傷 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
61	軟部組織損傷 膝関節半月板損傷 診察及び検査実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
62	軟部組織損傷 足関節外側靭帯損傷 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
63	軟部組織損傷 足関節外側靭帯損傷 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
64	軟部組織損傷 足関節外側靭帯損傷 診察及び検査実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
65	軟部組織損傷 足関節外側側副靭帯局所副子 固定実技	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
66	軟部組織損傷 足関節外側側副靭帯損傷 テーピング固定実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
67	軟部組織損傷 足関節外側側副靭帯損傷 テーピング固定実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
68	軟部組織損傷 足関節外側側副靭帯損傷 テーピング固定実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
69	軟部組織損傷 下腿三頭筋肉ばなれ 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
70	軟部組織損傷 下腿三頭筋肉ばなれ 診察及び検査実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
71	アキレス腱断裂 総論	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
72	アキレス腱断裂 固定実技①	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
73	アキレス腱断裂 固定実技②	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
74	定期試験	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター
75	総まとめ	教科書・固定具 パワーポイント プロジェクター

2024年度

授業要項

科 目	臨床実習1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(23コマ)
教 員	樋口知行、村山晶子、柳楽聡治郎 山田浩正、安達英水、小林聖、宮前勤	領域	専門	実務経験	接骨院、病院
教科書	適宜プリントで代用				
参考書	適宜プリントで代用				
成績評価	中間評価表、最終評価表、デイリーノート、出席状況、実力試験等を総合する。				
評価基準	100%の出席および実力試験60%の成績をもって合格する。欠席分は付属臨床施設実習で補填する。				
到達目標	柔整師として臨床における実践的能力および保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を望む。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ				
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため十分に安全に心掛けること。				
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと。 必要に応じて、実技練習をおこなうこと。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、外部臨床施設(接骨院、整形外科)での臨床実習。学校協会ガイドラインに準拠する。ガイダンス、実習前教育は時間外でおこなう。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	臨床実習	
2	臨床実習	
3	臨床実習	
4	臨床実習	
5	臨床実習	
6	臨床実習	
7	臨床実習	
8	臨床実習	
9	臨床実習	
10	臨床実習	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
11	臨床実習	
12	臨床実習	
13	臨床実習	
14	臨床実習	
15	臨床実習	
16	臨床実習	
17	臨床実習	
18	臨床実習	
19	臨床実習	
20	臨床実習	
21	臨床実習	
22	臨床実習	
23	臨床実習	

2024年度

授業要項

科目	臨床実習2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
教員	樋口知行 村山晶子 柳楽聡治郎 山田浩正 安達英水 小林聖 宮前勤	教授法	実習	単位数コマ	1単位(23コマ)
		領域	専門	実務経験	接骨院, 病院
教科書	適宜プリントで代用				
参考書	適宜プリントで代用				
成績評価	中間評価表、最終評価表、デイリーノート、出席状況、実力試験等を総合する。				
評価基準	100%の出席および実力試験60%の成績をもって合格する。欠席分は付属臨床施設実習で補填する。				
到達目標	柔整師として臨床における実践的能力および保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を望む。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ				
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため十分に安全に心掛けること。				
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと。 必要に応じて、実技練習をおこなうこと。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ授業を展開する。 外部臨床施設(接骨院、整形外科)での臨床実習。学校協会ガイドラインに準拠する。 ガイダンス、実習前教育は時間外でおこなう。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	臨床実習	
2	臨床実習	
3	臨床実習	
4	臨床実習	
5	臨床実習	
6	臨床実習	
7	臨床実習	
8	臨床実習	
9	臨床実習	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
10	臨床実習	
11	臨床実習	
12	臨床実習	
13	臨床実習	
14	臨床実習	
15	臨床実習	
16	臨床実習	
17	臨床実習	
18	臨床実習	
19	臨床実習	
20	臨床実習	
21	臨床実習	
22	臨床実習	
23	臨床実習	

2024年度

授業要項

科 目	臨床実習3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(45コマ)
教 員	樋口知行、村山晶子、柳楽聡治郎 山田浩正、安達英水、小林聖、宮前勤	領域	専門	実務経験	接骨院、病院
教科書	適宜プリントで代用				
参考書	適宜プリントで代用				
成績評価	中間評価表、最終評価表、デイリーノート、出席状況、実力試験等を総合する。				
評価基準	100%の出席および実力試験60%の成績をもって合格する。欠席分は付属臨床施設実習で補填する。				
到達目標	柔整師として臨床における実践的能力および保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を望む。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ				
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため十分に安全に心掛けること。				
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと。 必要に応じて、実技練習をおこなうこと。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では次の内容で授業を実施する。 外部臨床施設(接骨院、整形外科)での臨床実習。学校協会ガイドラインに準拠する。 ガイダンス、実習前教育は時間外でおこなう。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	臨床実習	
2	臨床実習	
3	臨床実習	
4	臨床実習	
5	臨床実習	
6	臨床実習	
7	臨床実習	
8	臨床実習	
9	臨床実習	
10	臨床実習	
11	臨床実習	
12	臨床実習	
13	臨床実習	
14	臨床実習	
15	臨床実習	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	臨床実習	
17	臨床実習	
18	臨床実習	
19	臨床実習	
20	臨床実習	
21	臨床実習	
22	臨床実習	
23	臨床実習	
24	臨床実習	
25	臨床実習	
26	臨床実習	
27	臨床実習	
28	臨床実習	
29	臨床実習	
30	臨床実習	
31	臨床実習	
32	臨床実習	
33	臨床実習	
34	臨床実習	
35	臨床実習	
36	臨床実習	
37	臨床実習	
38	臨床実習	
39	臨床実習	
40	臨床実習	
41	臨床実習	
42	臨床実習	
43	臨床実習	
44	臨床実習	
45	臨床実習	